男女貞潔之理想　公娼廢止之主張

會長 島田三郎　副會長 安部磯雄

5—627

明治四十四年八月一日創刊
大正七年十一月一日第三種郵便物認可
（大正九年六月十日印刷）
（大正九年六月十日發行）
（毎月一回十日發行）

廓清

第十卷第五號

□新マルサス主義……廓清會副會長 安部磯雄
□避姙は可能なりや……廓清會評議員 高島米峰
□産兒制限の可否（上）……一條忠衛
□男女共學に就いて……法學博士 山脇玄
□最近青年の思想……法學博士 吉野作造
□不良少年の研究……哲學博士 元田作之進
□飲酒と變態心理……醫學博士 片山國嘉
□其後の婦人救濟……救世軍大佐 廓清會評議員 山室軍平
□理想選擧の前途……成女高女校長 廓清會理事 宮田脩
□新人出でよ……小林光雄
□是か非か……上海にて 内山完造
□女子の採るべき途……山根白菊
□苦る輪物語（二）……前某避病院看護婦 田口和子
□編輯の後……白萩生

東京　廓清會本部發行

ライオン歯磨

と

口中の黴菌

▼ライオン歯磨は、口腔衛生學上より、歯科醫學上より、藥物學上より觀て、悉く合理的のものばかりを配劑致してありますから、完全なる化學的作用と完全なる理學的作用と、完全なる藥效的作用とを持つてをります。

▼完全なる化學的作用とは、齲齒の原因たる乳酸醱酵菌に對して菌体の破壞作用を營み、齲蝕を豫防するのであります。

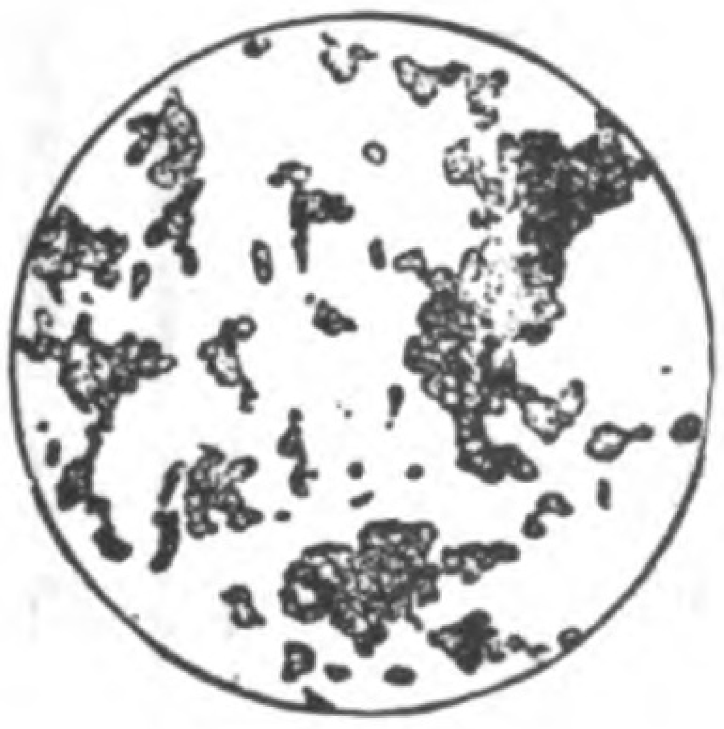
完全なる理學的作用とは、その微細均等なる粉末が天然の齒牙は勿論、齒牙の補充に使用せる金屬に對しても、磨滅の憂なく隨つて、齒牙を損傷せずして能く齒垢其他齒間の不潔物を完全に除去し、汚物の醱酵より來る口臭を豫防する事であります。

▼完全なる藥效的作用とは、口腔常在菌（口中にある諸種の黴菌の綜合的名稱）の繁殖を防ぎ、若しくは死滅せしめ、朝夕の使用によつて齲蝕の進歩及び齒痛を豫防し、且齒齦炎の如き口腔內に起る炎症に對し特效を有する事であります。

▼殊に、口中には下圖に示す如く、諸種の病原菌が發生して、それが齒根から淋巴腺に入り込むか、或は咽喉から嚥下されるかして、結核病・リユウマチス・神經痛、糖尿病などの原因となるのです。それ故に、ライオン歯磨を朝夕愛用して、齲蝕を豫防し、齒垢や齒石を豫防する事は、身体保健上、何よりも大切であります。

口腔常在菌

肺炎双球菌



化膿性葡萄状球菌

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓清
THE PURITY
大正九年六月
第十卷第五號

新マルサス主義に就いて

早大教授
廓清會副會長　安部磯雄

□舊、新マルサス主義の比較

新マルサス主義のお話をする前には、舊マルサス主義のお話を述べておかねばならぬ。

マルサスの議論は、極めて簡單に述べる事が可能る。

マルサスは『人口が增加すると人類が困まるやうになるから、之れを制限しなければならぬ。制限するには可成く結婚を制限する、亦場合に依れば、全然結婚しなくても宜敷い』と云ふのであつて、辭を換へて言へば、子供を教育する準備なくして結婚するといふことは、親として子供の教育を爲すべき責任を完く爲さないから不可いと謂ふのである。

それから新マルサス主義は、人口を制限するといふ事は舊マルサス主義と同じであるが、方法が異るのである。

舊マルサス主義は、結婚を制限するが、新マルサス主義は結婚は幾ら早くても宜い。結婚は成る丈け若い内に、凡ての青年男女が行つた方が宜敷いが、然し產兒の制限をしなければならない。それは人口が殖えるからである。而してその制限は人爲的にすると言ふのである。

一言にして云へば、結婚をしても體に害にならない方法を以て、產兒の制限を爲ると謂ふ、此れが新マルサス主義の骨子である。

□男女間の風儀問題

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

此れには、随分種々な議論もある。
第一の反對論に、若しさういふ事を公然と許す時は、男女間の風儀が亂れて來はしないか。今日男女間の風儀の亂れないのは、婦人に姙娠といふことがあるからである。若し婦人に姙娠といふ心配がなくなつたら、男女の風儀といふものが非常に亂れはしないであらうかと謂ふのであるが、それは無用の杞憂である。
今日の如くては男女の風儀が亂れると言へるが、マルクスの如く、若い人が凡べて結婚するといふ事になれば、風儀の亂れやうがないではないか。如何なる人も悉く配遇者を有つて居るのであるから、風儀の亂れやう筈がない。現に和蘭邊りては、新マルサス主義が行はれて居るが、風儀が遙かに可いといふことである。
然し之れは道德上の問題が起つて來るから善く考へねばならぬ。

□男女關係の目的

夫れは、男女の關係は子孫を繼續して往くといふことが目的であるに、故意に子供の出生を制限するといふことは、道德觀念が何んだか卑やしい。子供を産まずして男女關係を結ぶといふことは、尤も野卑し事てあるといふ。
その點が新マルサス主義と倫理關係、道德關係に就いて研究すべきところてあつて、亦其處が問題て、私が此處に提供して置き度い事は、元來男女關係は、單に子孫を繼續するが目的てあるか、怎うてあるかといふことてある。

下等動物を考へて見ると、單に子孫を殘すが目的であるといふことは、確かに見る。けれども、人間は左樣な簡單なものてはない。何故かといふに、男女關係に戀愛といふものが這入つて居る。
戀愛は、下等動物にも幾らか萌しが現はれて居ると思はれるが、人間に現はれて居る戀愛と、到底比較にならぬ。其處て、吾々人間の間に戀愛が發達して來た爲めに、或る人の如きは、男女關係の全部は、戀愛であるとまて言つて居る人もある。
それが善惡は別としても、男女關係にそれが幸福であるといふ事實も爭はれない。

□男女關係の二要素

男女の關係には、それが人間の場合には、二つの要素がある。
一つは戀愛であつてハ他の一つは子孫を繼續するといふ事てある。或る人が言ふ如く、戀愛なくして結婚を爲るといふことは、確かに不幸てある。戀愛なくして結婚するといふことは、恰かも下等動物に等しい。けれども亦戀愛のみて結婚するといふことも考へものてあつて、子孫の繼續といふことも考へなければならぬ。此の二つの關係は、離るべからざる要素てある。
左うすると男女關係といふものは、子供を産むといふ以外目的が無いといふ考へは起らない。亦男女關係は必ず子孫の繼續を目的と爲すにあらざれば、男女關係を結ぶ事は不可能

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

いといふやうな觀念も起らないといふことになる。極端に進めて往けば、婦人が子供を產むといふことは制限されて居る。五十歲を過ぎたなら出產することは出來ない。其の時期を過ぎれば男女關係を却けなければならない。子供を產む機能を失したならば、最早や子孫の繼續といふことは無くなつて居るのであるから、若し子孫の繼續のみを目的として男女關係を結ぶならば、此の時機に於て其の關係は絕たれなければならないのであるが、實際に此の場合男女關係は却けられて居るか否や。今日の多數の人は、男女關係を廢止して居るか怎うか。恐らくは無からうと思ふ。

子孫の繼續の目的が、全然無くなつて居つても、男女關係の繼くのは、戀愛といふ思想が這入つて居るからであつて、若し下等動物の如く、戀愛といふ思想が無いならば、男女關係は、繼續されない譯である。であるから、子孫繼續の目的が無くなつた後に、尙ほ男女關係が繼けられて居ても、それが罪惡であると考へるのは、極端な議論ではなからうかと思ふ。

その關係が明かになれば、男女關係は確かになる。

□新マルサス主義の長所

新マルサス主義は、靑年男女を結んで制限を採らないといふことが、何れ丈け非難すべきことであらうか。それは唯だ從來の因襲的な觀念、Tradition の思想に捕はれて居るのであつて、何んだか厭だといふ丈けて、道理の上からは成立しない譯である。

子孫といふこと丈けを考へて、戀愛の制限を爲すといふことは、靑年男女に採つては實に慘酷なことてある。新マルサス主義が行はれたなら、戀愛を男女關係に完全ならしむることが可能て、その人々の幸福を撲滅しないて、惡い遺傳を絕つことが可能る。

其處に、新マルサス主義の效能があるのである。

□個人と國家の懸案

既に結婚者て兩親が完全であるのに、不具者が產まれるといふやうな斯ういふ場合にても、新マルサス主義を實行することが、果して道德に背むく事であるか何うか。

若し夫婦間に戀愛も何もないものなら、夫婦關係を絕つても宜いが、尠しても戀愛が有つたなら、斯ういふ時に夫婦關係を絕つといふことは、慘酷なことてある。

戀愛關係で夫婦關係が結ばれるといふことは、道德に關する問題であるから、我が國ては自由に討論されて、各種の議論が戰はれなければならない。

此れは、個人間に於ても、亦國家としても中々重大なる問題てあらうと信ずる。

◇結婚同盟會成立◇

和歌山市小松通二丁目基督敎信者野本さつき女史は理想的結婚同盟會を組織されました。同會は每月集會を催し講演をなし且つ結婚時に於ける對人調査、結婚後の夫人と會の聯絡を圖り目的を達成なる方針であると。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

避姙問題の可否

廓清會評議員　高島米峰

◇避姙は鳥獸の處爲にも劣る

避姙とは、人間靈性の發動に基く、男女の肉體交渉の必然的結果に對する、人工的忌避である。惟ふに、男女の肉體的交渉は、必ず其の靈性の發動に基くものでなければならない筈である。然るに、滔々たる世間の男女は、鳥の如く獸の如く、唯肉の衝動のみによつて交會を爲し、交會それ自身を以て無上の快樂と誤解し、未だ曾てその神秘の意義に想到するものがない。これ即ち人間靈性の墮落である。交會の神聖の冒瀆である。是を以つて世の交會の爲めに交會する男女は、其の交會の妨げとなる姙娠と云ふ必然的結果に對して、之を恐怖し、嫌忌すること甚しく、如何にかして、これを避けんかと試みるのである。然も、言ふ迄も無く、予は斷じてそれに與することは出來ない。

試みに思へ、人間の尊貴なるもの、生命に如くものがあらうか。而して、吾等人間の生涯を通じて、創造し得るものゝ中、生命程尊貴なるものが他にあるであらうか。この尊貴なる生命の創造、是れ實に人間として唯一最高の事業ではないか。然るに人工を加へて、その結果を阻止せむとするは、明に天地自然の法則を破壞するばかりではなく、又人間自らその尊貴なる生命の意義を沒却して、鳥獸の群に投ずるものである。殺人も墮胎も、共にこれ生命の破壞にして、國法の嚴に處罰する處なるに、獨り生命の創造を妨ぐる避姙のみが、國法の制裁以外に置かれたるは眞に餘儀なしとはするも、道德上、宗教上、これを寛容せむとするが如きは、果して能くその理を盡したものであらうか。

◇新マルサス主義

人口は幾何級數的に增殖して行くに反し、これに要する食物は、算術級數にしか增えて行かない。マルサスは『是以上進んで行けば、人間の生活が困難になるばかりである。何とかして是を防がねばならないが、先づ結婚の延期、及び結婚前の制慾とに依つて、人口の增殖を制限するを最上の策とする』と唱道したのである。が、結婚の延期は、獨身者の增加を來す爲め、必然的に賣淫者、私通者の增加となり、社會の風紀秩序は紊亂し、且つ非衞生になるといふ結果に到達せざるを得ない。仍て、此のマルサスの說に一步を進めて、此の生活上の危險を防ぎ、且つ墮胎とか花柳病とか云ふものを退治して、比較的純潔に、且つ健全なる社會を作るために、避姙の實行を普及せしめんとしたのが、即ち新マルサス主義と云ふのである。この新マルサス主義の主張、要點は、避姙を實行すると云ふことになれば子供が出來ない。子供が出來なければ、男女ともに成る可く早く結婚することが出來る。早く結婚すれば、賣淫の必要もなく、私通の必要もない。從

つて花柳病は減ずるし、隕胎は行はれない。殊に、貧者は多く產んで敎育も施し得ず、不良の少年ますく多きを致すが如き、眞に憂ふべきことで、寧ろ少く產んで多く敎育すると云ふことが、社會及び其の父母、その子孫の幸福ではないかといふに歸するのである。この主義の最初の主張者は、フランシス・フレースで、アンニー・ビザント夫人などは、猛烈なる避姙奬勵論者である。

この新マルサス主義が、盛んに唱道せらるゝやうになつた時代に、夫の有名なるチャーレス・ダーウヰンの從兄で、サア・フランシス・ガルトンと云ふ人が、人種改善學といふを創始し、結婚を通じて、遺傳、進化及び自然陶汰の法則の外に、更に人爲の陶汰を加へて、人間をして、より完全な意味に於て、適者生存を全うせしめんとした。この人種改善學と、新マルサス主義とは、交涉するところ頗る深く、新マルサス主義の要點たる避姙の實行は、そのまゝ人種改善學に於ける主張の要點となつた。

精神病者及び惡疾者は、自ら性慾を斷滅せしめるのが、社會及び人類に對する本務の一つと考へなければならない。生命の創造は尊貴なれ共、「狂生命」「犯罪生命」「病生命」は靈光を失へる生命で、有名無實の生命である。かゝる生命の創造は、人類の安寧と幸福とに危害を加へることはあつても、善きことを增進させることは斷してあり得ない。而して斯くの如きは、單に避姙の如き消極的緩手段を待たずして、寧ろ手術を加へて、生殖不能たらしむるを安全とするのである。

◇生命の創造を妨ぐる惡魔

避姙が若し、貧困者の生活を安固ならしむる爲め、又賣淫者、隕胎者を絶滅する爲め、花柳病者を減少するため、人種を改善して優良ならしむるための手段としてのみ行はるゝと云ふのであるならば、難產の場合、母體の健康上、胎兒を殺すことのあるのが誠に餘儀ないのと同樣に、之を認めればならぬだらう。而も是等の目的以外に行はるゝ避姙は、生命の創造を妨ぐる惡魔の所爲として斷々乎としてこれを責めざるを得ないのである。新マルサス主義及び人種改善學の立場よりしたる意義ある避姙も、其方法を誤らば、遂に幾多の弊害を釀す。即ち避姙過度の結果は、人口の減少となるは極めて見易き道理で、これ實に國家の存立に大なる影響ある事件である。勿論多く生れても多くゝ死すれば、少く生れて少く死すると同じ割合であるし、少く生めば、之を敎育する上に、十分に手が屆くから、比較的立派な人物が出來る。多數の劣等なる人間の蠢動よりは、少數にても、優等の人物の活動の方が、國家の爲め人類の爲め幸福である。多數の病人より、少數の健康者の方が役に立つてはないか。と云ふやうな理窟も尊敬すべきであるが、人類の生存が續行する限り、爭鬪も亦持續する故、人口の減少といふことは、其國家の大に考慮すべき問題なりとせればならぬ。

自然のまゝに放置しても、人間は、文明に進めば進む程、出產率が減ずるのである。姑く動物に就いて考へてみても、下等動物程多く子を生み、高等になるに從つて數が少くなつて來る。而して人間になると、もう双生兒を產むさへ珍らしくなつてゐる。又貧民階級は上流階級に比し、地方人は都會人に比して、子を產むことが多い。是等の理由よりして、敢てマルサスの人口論を覆すことは出來なくとも、今後の社會は、必ずしも幾何級數的に、人口を增殖するものと斷定することが正しいか、どうか、更に幾年かの後に、統計の示すところを見て、決す可き問題であらうかと思ふ。

◇母たらんとする本能

斯ういふ論がある『避姙を奬勵しても、人口は減ずるものではない。元來、人には、子供を欲するといふ本能がある。女には母たらむとする熾烈なる本能がある。如何なる貧困者も、如何なる富貴者も、必ず自分が育て得る最大限までは、子供を生むことを厭ふものではない。現に子なきを憂へて、他人の子を貰つてさへ、愛育するものがある以上、假令、避姙の方法が普及したからといつて、人間の悉くが、之を實行し得るものではない。』又『無敎育な弱い子供を多く社會に出すよりは、完全な敎育のある強い子供を少く社會に出す方が勝つてゐる』『避姙が惡いのならば、子澤山で困つてゐる貧乏人に對して、これを扶助する方法を設くる責任が、國家又は

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

社會に無くてはならぬ。若し然らずして、漫然避妊を罵り、人口の減少を恐るるのは無責任な空論である』と、いづれも傾聽すべき理由がある。

然し、子供を得むと欲する本能、母たらんと欲する本能あるものが、假りに三人の子供を得て、先づこれで滿足であると考へて、以後避妊を實行したとするが。人壽もとより老少不定であるから、若し三子を失つた場合に、母の年齢已に子を得る能はざるに達してゐたらば何とする。彼にして五人六人の子供を生み置きたらんには、三人を失ふも、猶二三人の子供あるありて、能く母たらんとするの本能を滿足し得べきてはないか。又貧乏人の子供は、必ずしも多きが故に教育を授けられぬ、少きがために十分の教育を授け得るとは限らぬ。少きがために强壯なるは、多きが中に居ても强壯に、弱きは少き中にても弱く、卽ち軈ては適者のみ生存することゝなる。又上流中流の階級に於て、これを考へてみても、其兒の體質性格に依て、必ずしも教育が十分に出來るとも出來ないとも限らぬ。身體も亦子供の少き場合に强く、多き場合に弱しとは斷ずることが出來ない。寧ろ初生兒は大抵弱く、第二兒第三兒と、次第に身體强壯の度を増すは、各人の等しく經驗する所である。故に多く生んで、その中より優秀なる人物を出すといふ方が、自然ではなからうか。

◇或る新しい女の避妊論

或る新しい女が、ある男と共同生活を始めた。その母に送つた書面の一節に『私は、今の場合、子供を作らうとは思つて居ませぬ、自分を重んじ、自分の仕事に生きてゐるものは、さう無暗に、子供を生むものではないといふことを御承知が願ひたい。(中略)母になりたいといふ欲求もなし、子を養育する經濟的精神的の力もないから、造らない考へです』と明言して居る。然らばこの兩君の同棲には、肉體の交渉も伴つてゐたとすると、尊貴なる生殖作用を、唯、自己の快樂――肉慾の滿足――のために行つたといふことになるのであつて、明に避妊を實行してゐるものと解することが出來る。然るにこの女も、今は、母となつて、『自分を輕んじ、自分の仕事に生きない』人となつてゐる。

又他の新しい女は曰く『子を產めば勢ひ、家庭に囚はれ、あたら一生を愚劣に終らせられる。吾等は煩の少い、そして、より深い生活を營まねばならぬ。子なんぞ生んで、自ら、進んで、家庭に繋縛せらるるのは愚な女である。不用意な女である。而して實に、これ、女としての恥辱である』と。この論、これは要するに『子供の世話をするのは面倒臭い』といふに歸するのである。で私は『お前のお母さんが、お前さんと同じやうな考を實行したとしたならば、お前さんといふ者の存在が、不可能であつたといふことに氣がつかないのかね』と聞いてみたい。

◇結婚する資格なき者

少しく理窟をこねてみるならば、避妊や墮胎は、進化の方則を無視するものであるといへないことはない。新しい女と稱せられて居る人々を、額面通りにエライ女として置いて、

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

さてそういふ女は、大いに澤山子を生んて、エライ遺傳を受けたエライ人物を、此世に送り出す可き義務があるのてある。大きく云へば、さういふ女の子孫によつて、將來の世界の向上と發展とを圖るべきてはないか。この世が、この新しい女達の一代て滅びて了ふものならば論はない。新しい女が、その自我の相續も擴大も慾求しないといふならば問題はない。

苟もさうてない以上、大いに子供を產む可きてはないか。產んだ子供を育てなければならないてはないか。それを外にして、何處に『深い生活』があるだらう、思想ある生活があるてあらう。新しい女は、これを『恥辱』だといふ。然もそれは正に、新しい女の『光榮』なのてある。現に、動物てさへ、その子を養つて居るてはないか。人間にしてしかも、新しい女といふエライ女ともあるものが、四人や三人の子供の爲めに、生活を妨げられるといふが如き、何等の意氣地なしぞ、何等の甲斐性なしぞ、此くの如き女ならば、寧ろ最初より、結婚する資格なきものてある。共同生活をする實力を有せざるものてある。

◇避姙是とすべく又非とすべし

避姙背定の理由は、聽くべきものあるには相違ない。單に社會問題及人種改善問題等よりして觀れば、效果は擧るかも知れぬが、宗敎上、道德上より觀れば、忌む可く、恥づ可き事だと思ふ。尙ほその道德上に及す危險を顧慮する時、全然之に贊同する勇氣を失つてしまふ。否、憤然として大反對を絶叫せねばならぬ。姙娠は自然である。避姙はこの自然の破壞である。不自然なる行爲は、知らず識らず人間の德性を損害し、人をして、罪惡に對して、寬容なる氣質を馴致するものてある。殊に、避姙は男女をして、避姙に依賴して、種々なる不潔不義の肉交を遂行せしめもするてあらうし、處女の節操に對する男子の尊敬心を失はしめもするてあらう。殊に夫婦關係卽ち結婚關係と、賣淫關係との區別も明瞭を缺き、すべてたゞ、肉慾の滿足に伴ふ自己の快樂を得るといふに止まり、敗德亂行、世はこれ獸の世となり了つて、その間、毫も人間靈性の閃きを認めることが出來なくなるてあらう。

新マルサス主義及び人種改善學の立場から云へば、避姙は頗る有利の事て、吾等の理性は、これを拒絶することが出來ない。けれども又吾等の感情は、吾等の道德觀念を、此の理性と一致せしめる程に冷かになり得ないのてある。卽ち曰く、國利民福の爲めてあるといふ大確信の上に立てる避姙は、最後の手段として、これを是なりといはう。不純、不潔、不義、不倫の肉慾の結果を、隱蔽せんが爲めの手段としての避姙は、これを墮胎にも比す可き一大罪惡として、斷々乎としてこれを非なりといはう。

□全鮮の藝酌婦□

其筋の調査に依れば大正七年末現在に於ける全道料理店飲食店藝妓置屋藝妓酌婦貸座敷娼妓數は、料理屋内地人七百十一軒朝鮮人五百六十三軒。飲食店内地人千百九十七軒。朝鮮人六萬七千五百六十二軒。藝妓置屋内地人百五十一軒朝鮮人人九十七軒。藝妓内地人千二百十人朝鮮人九百三十一人。酌婦九百二十六人朝鮮人九百十三人。貸座敷内地人三百三十軒、朝鮮人三百三軒外國人一軒。娼妓内地人千九百四十五人朝鮮人九百八十七人外國人二人なるが、其後財界の好調なりしに伴ひ目下にては何れも約三倍に增加し居れりといふ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

倫理上より觀たる產兒制限の可否（上）

一條忠衛

（一）日本に於ける過去の產兒制限

私は產兒制限の可否に就いては、今日までに幾度も論じて來たので持論の形になつて居るが、まだ廓清會の御同志に向つては卑見を申し上げて置かなかつたから、それを今回茲て御參考までに申し上げて見たい精神である。御承知の如く、前回の論文では『男女の性に於ける必然と自由』と云ふ題てあつて、この產兒と云ふものは必然に屬するか自由に屬するかと云へば、それは必然に屬すると云ふ結論に達して居た。何ぜなれば、自由意思を以て子を生むとは稱せられても、妊娠の發生的現象に於ても、胎兒の發育に於ても、その分娩に於ても、悉く生理的必然の現象だからであつた。產兒は全くこの男女の性に存する必然の大現象であつた。この事はかなり詳細に申し述べて置いたと記憶するのである。

ところが人間には一方に自由と云ふものがある結果として、この必然の現象たる產兒に對して、これを人爲によつて制限することを發明した。過去の人類の歷史を觀れば、到るところの社會で產兒を制限して居た。それには個人の任意によつて制限することもあれば、公の命令によつて制限する場合もあつた。我が國では明治の初年まで、この產兒制限を大に行つて居た。江戶時代には殊に盛であつて、凡らゆる階級に及んでこれを行ふことを常習として居た。德川幕府は度々諭達を下して禁制したけれども、實際に於ては少しも效力が無かつた。就中、武士階級に於ける小祿の連中は殆どこれを行はぬ者は無い有樣であつた。これは諸藩悉く同樣であつて、二兒制若くは三兒制を以て家憲として居た。その理由とする所を聞けば、蓋し家祿なるものには、一定の限度があるので、家族員を猥に殖すことは經濟上不可能であり、且つこれを顧みぬことになれば貧乏生活に陷り、遂に主君に對する臣下の務を怠ることになると云ふのである。それで、當時の社會では、嫁が兒を產めば舅姑や夫が集つて相談を爲し、『今度の兒は置かうか？置くまいか？』と言つたさうである。その有樣は丁度、犬や猫が兒を產んだ時と同一の觀があつたと云ふことである。若し『置くまい』と云ふ決議になれば、產婆にその旨を傳へて壓殺して貰ひ、その死骸には一片の同情を手向けて、これを家の土臺の下や庭の隅に埋葬したと云ふことである。夜になつて犬や狼がそれを掘り出して、引き摺り廻して食つて了ふこともあつたと云ふことである。それ

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

て斯うした慘酷な行爲に堪へない人々は、豫め姙娠中に服藥するとか按腹するとか種々な方法を用ゐて、墮胎するのが常であつたさうである。けれども、墮胎も身體に害があり、殆ど命懸な冒險であつたので、普通は避姙を以て理想としたと云ふことて、町家の後家や寺の尼などは斯の道の專門家てあり、師匠てあつたさうである。

然るに明治十三年に至り、我が國も佛蘭西の法制に據つて刑法が布かれるに及んて、嬰兒の壓殺が禁じられたので、從つて避姙の思想も次第に消滅して、終にその方法も忘れられた。現在の日本の家庭に於ける若い夫婦の間で、避姙を行ふ者は殆ど無いと云つても可い位であつて、兒を生むことには少しも制限を設けず、自然のまゝに委ねて居る。每年兒を產んて居る夫婦の間でも、これを煩瑣と心得ながらも敢て避けようとする意志も無く、子供が多くて生活に困つて居る家庭ても、敢て產兒に制限を加へようとも欲しないのである。全く現在の日本の家庭では、產兒制限の思想も慾望も無いと言つて宜しいのである。唯だ花柳界や妾宅に於て、又は姦通や野合に於て、不義の情交に耽る男女の間に於てのみ、避姙が行はれるのみである。然るに昨今は歐米諸國よりの外來思想により、我が國の社會にも避姙を說き、產兒制限の必要を論じ、その宣傳に從事する人々も出て來たので、一般世人はその可否の論に迷ふやうになつて來た。

（二）西洋諸國に於ける產兒制限

近代文明の理想により、西洋諸國て嬰兒の壓殺や墮胎を正義に反するものとして法制上より禁じて居たことは、日本とは比較にならぬ程以前からの事であつた。ところが歐洲大陸の社會では、十九世紀の中頃になると、產兒を制限する思想が生じて來て、避姙が流行になつた。先づ佛國の社會では上流中流より下流に及んで避姙の流行となり、二兒制を採るに至つた。殊に同國の相續法に於ては、平等なる分頭相續になつて居るから、親の死後は遺產を數人の子供に分配しなければならぬ結果として、親の時代に上流社會の生活をして居た者は急に中流社會に入り、中流社會の生活をして居た者は急に下層社會の生活に入らねばならぬので、親は子の將來を憂慮する爲めに二兒制を採つて、遺產を切半した位の生活程度に於て、子の社會的地位を保護せんとする風習を生じた。それが爲めに、佛國では一八五〇年より一九〇五年に至る間に於て、出產率は人口一千に就いて二十七より十九に減退した。和蘭人に在りては新マルサス論を用ゐて、國中に二十五箇所の避姙教授所を設くるに至つて、これも出產率が減退した。獨逸は出產率の減退が最も少い國であるけれども、歐洲戰爭以前に既に低落の勢を示して居た。それには色々な原因があらうけれども、獨逸は醫術の最も進步した國であつて、死亡率が少い割合に生產率の低落に傾いたのは、國民中に避姙を行ふ者の生じて來たことも一原因を爲して居ると見なければならない。次に佛國を中心として流行したこの產兒制限の思想は、英米諸國にも輸入されて、專ら上流中流の社會に流行したのであつたが、それが次第に下層の社會に向つて宣傳されるに至つた。英國の出產率は一九〇七年には人口千人

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

に就いて二十六てあつたが、一九一七年には一八に減退した。これは英國の植民地の濠洲諸邦に於ても殆ど同樣てある。米國の舊い諸洲ては、移入民の大なる出産率に由つて平均を高められて居るけれども、これを差し引いて計算すれば、その生産率は佛國と伯仲の間にあるのである。

斯樣に出産率の減退したことは西洋諸國に於ける共通の現象であるが、それには勿論色々な原因がある。一二の理由を以て論ずることは出來ない。けれども、産兒制限の思想による避姙の流行が與つてこれを助長したことは爭はれぬ事實てある。そして産兒制限の宣傳又は避姙法の敎授は、益々これを助長して居ることも爭はれぬ點てある。これが今次の歐洲戰爭以前に於ける歐洲諸國の社會狀態てあつた。然るに戰後の今日に至り、各國に於ては非常なる戰死者を出して居る。英國は六十五萬人、佛國は百〇七萬人、伊太利は四十六萬人、米國は四十萬人、露西亞は百七十萬人(?)獨逸は百六十萬人、墺太利は八十萬人、土耳古は四十三萬人の戰死者を出して居る。これ等の男子は何れも國民の精鋭てあつて、生殖力に富む國家の資てあつたから、人口の上には甚だしい打撃てある。殊に佛蘭西の如きは非常なる打撃てある。それが爲めに、昨今は戰前より國策として居た産兒の奬勵を一層盛大にする方針に出て來た。然るに英米の社會に於ては、依然として産兒の制限に向つて宣傳を繼續して止まない人々が居る。殊に米國ては爾來上流及び中流の社會て避姙を爲さぬ者は殆ど無い有樣てあつて、産兒制限の思想は茫邈として國中に漲つて居た。國民避姙協會なるものが設立され、米國各洲を通じて規定されて居る避姙敎授禁止法の撤廢運動を開始して居る。殊にサンガー女史の如きは、雜誌『避姙』を發行して、下層社會に宣傳して居るのみならず、其の手を日本の社會にも伸ばさんとして居る。同誌は嘗て日本の軍國主義は多産の結果てある。多産は排日の原因てあるから、日本人には避姙が必要てあると結論した。

今、彼等の宣傳する論理上の趣旨を聽くに、頗る多岐に亘つて居るが、その梗概は下の如きものてある。蓋し性慾と云ふものには二種の要素がある。一は種族保存の本能に屬するものてあつて、一は男女生活の快樂に屬するものてある。そして此の二種の要素に於て、何れが重要の地位にあるかと云ふに、種族保存の本能よりも男女生活の快樂の方にある。それて從來の如くに男女生活の快樂が種族保存の本能を助成する一作用に過ぎぬと見たのは、甚だしく誤解てあつた。何ぜなれば、有らゆる動物を見るに彼等は單に種族保存の本能によつて生殖を營むのみてある。一交尾の後に必ず受胎あるのみてあつて、性慾そのものを樂しむ精神的生活が無いのてある。然るに人間に至つてはこれと趣を異にして居る、人間に於ては性慾を樂しむのてある。卽ち男女の生活を精神的に樂しむのてある。食慾のやうに性慾の必然に對して、これを享樂するのてある。それには早婚によつてその性慾の滿足を求めて、且つその産兒を自由によつて制限しなければならない。これが動物に求め得られない點てあつて、實に人間生活の眞相てある。避姙の原理は實にこの人間生活に於ける性慾の愛護に存するのてある。そして人間の生活は社會的に確保され

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

るものであるから、優良なる國民を作らなければその性慾の愛護も全うされないことになる。社會の上流又は中流の國民は教育もあり、經濟の保證も得て居るのであるから、避妊の方法をも知り、産兒の制限をも爲して優良なる子孫を生み、充分な教育をも施すことが出來るから、その爲めに夫婦の性慾の快樂を毀損されるやうな事は無い。然るに下層の人民に於てはそれが不可能である。社會の人口は常に健全なる分子に依つて維持されなければならぬのに、今日の如くに下層社會によつて維持されて行くのは甚だしく危險である。彼等の生活狀態は餘りに貧弱であるが爲めに、子供は營養不良に陷つて居る。加之、これに充分な教育を授ける資力が無い事情からして、無教育の人民を增加するのみである。斯樣な次第で國民は漸次に惡化して行くのが現代社會の傾向である。低能兒、神經異常者、精神病者、酒精中毒者、肺病患者、花柳病患者、色情狂などの惡質者はその代表的産物である。これは人種衞生の上に深憂すべき事柄である。故にこれを救濟する策としては、下層社會の多産を阻止して産兒の制限を行ひ、優良なる國民を作ることに努力しなければならない。それが爲めには避妊を行ふことが必要である。殊に下層人民は教育の無いために避妊法を知らぬことより、多産になつて自ら苦しむのであるから、彼等に避妊法を教授して、その貧困より免れしむることは、社會改良の一大運動で無ければならない。避妊を罪惡と思ふは古い道德である、と。斯樣に産兒制限の趣旨は極めて明に主張されて居るのであるが、是れは果して眞理であるか何うか。避妊は果して新しい道德であるか何うか。吾々は更に進んでこれを男女問題の立脚地から、嚴正なる道德的批判を試みなければならない。

〔三〕 性慾論より觀たる産兒制限

上述の如く、西洋諸國に行はれる産兒制限の趣旨なるものは、性慾論、優良種論、經濟論に根柢を有するものであるが、其の目的として避妊を行ふことを以て一種の社會道德と爲さんとするものである。今この説の是非を批判するには、先づ性慾の本義を釋明することが肝腎である。性慾の本義に於てその正しい解釋を得れば、産兒制限の可否は自ら明になるのである。然らば性慾の本義は如何なるものであるか。私は拙著『男女道德論』及び『男女問題講話』の中に論じて居るが、私の意見に依れば今日まで性慾論者は或は生理論に偏したり、或は心理論に偏したり、或は經濟論に偏したりしたが爲めに誤解を生じたのである。私の見る所に依れば、性慾は單に本能としてまたは內面的の衝動として生理的に働く場合には、元より意識に於ける意欲として生ずるものでは無い。一般動物に於ける性慾はそれである。動物に在つては性慾が本能又は內面的衝動として發作する時には、自然的に生殖的行動として性交を行ふので、その結果として受胎するのである。けれども、人類に至つては稍その趣を異にするのである。人類には意識と云ふものがある。自由を內容とする意識と云ふものがある。性慾はその末梢を本能に置いて、その中樞を意識に置いて居る。文明人に至つては、性慾は明に意識に於ける意欲として現はれて來る。即ち男女の青春期に達

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

して、性的欲望として意識に現はれるものが性慾である。人類に於ける生殖の本能を末梢として、男子が女子に對し、女子が男子に對して生殖上より欲求する一切の欲望を總括した意欲が、卽ち性慾と云ふものである。詳言すれば、生殖細胞の分裂による刺戟に基き、感覺的印象として意識作用の上に現はれる男女の性と云ふ概念を意識對象として、その意欲の發動として生ずるのが性慾である。それて性慾はこれを肉體の欲望とか精神の欲望とかに分類することは不合理てある。意識に於ける單一不離なる主觀上の意欲であるから、靈肉一致の欲望として見なければならない。靈の要求とか肉の要求とか云ふ語を以つて當てることは誤つて居る。けれども、之れを客觀的に見るときは、男女の精神的交通を假に靈肉と名づけ、肉體的交通を假に肉慾と稱することは出來る。しかし主觀的認識の性質からして靈慾は主となり、肉慾は從となるので、肉慾も歸するところ靈慾の一作用に過ぎないことは勿論である。そして此の性慾と云ふ意欲は同時に具體的に知情を伴つて居るので、純粹なる抽象的意欲てはない。又かの主意説からして本能的衝動に於いて、これを知情を交へぬ意欲としての性欲と見るは誤つて居る。何となれば衝動と意志とは異つて居る。若し衝動が意志作用の根元であるならば、下等動物に存する感覺及び感情をも衝動の作用と見て差支へないことになる。けれども、知情は衝動の結果て無いのみならず、知情を伴ふ意志が衝動に根元を有すると見るは誤解てある。それ故、性慾はその末梢に於ては衝動に連結されて居るけれども、その中樞に於ては知情を隨伴する一個の意欲になつて居る。

そして人間の意欲はそれを形式的に抽象的に考察すれば、生に對する欲求であるが、實質的に具體的に考察すれば千差萬別てあり、その中で最も原始的のもので最も强烈なる意欲は食慾と性慾とてある。その他の可能性はこの二箇の人性を中樞として、其れに纒綿した附屬能力てあつて、悉く客體である。そして食慾は個人の經濟的生存を持久する意欲であるが、その究竟的目的は性的個人として社會的生存を持久し、以て人類の存續に報ゆる手段てある。換言すれば、食慾も性慾も共に人格の可能性を發揮して人生の目的に到達する意欲てあるが、食慾は性慾の可能性を發揮する爲めの準備としての意欲てあつて、性慾に對しては自ら客體の地位にあるものである。だから性慾は人類の意欲に於ては、實に根本中樞を爲せる意欲てある。然るに人生は意欲そのまゝの生活では無い。意欲の統御的生活である。卽ち理想を追求して正邪善惡の價値を明にして進む生活である。この生活を名づけて道德的生活と云ふのである。人間の主觀はその人格に於て吾人の行爲に關して普遍的理想を律して、その規範の下に率つて行爲して居る。事實上にはこの規範に違反する行爲があつても、その主觀の純粹要求に於ては普遍妥當的に吾人の當に爲すべき本務なるものを體驗して居る。それて吾々は或る行爲を爲さんとする場合には、道德律に率つて理知の判斷と感情の評價を伴ひ、その動機の決定に於ては其所に支配する側面と支配される側面とを生じ、前者は行爲の理想と爲り後者は志向となるのである。この道德律に照合して選擇されたる理想は

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

即ち至善であり、其の究意に於て人生の目的であり、人格の可能性であり、その體現の上よりこれを見る時は即ち行爲上の德である。

斯の如き理由によつて、性慾が吾人の意識に發動する時には、生理的であつて、心理的であつて、且つ倫理的であると云ふことが、その根本特質である。それて性慾は常に道德的意識の上に出現する欲望であつて、道德的判斷及び道德的情操によつて醇化され、意志の自己決定によつて理想と非理想との二面的觀測に分れるのである。或は正善なる性的動機の下に正善なる性的行爲となり、或は不正なる性的動機の下に不正なる性的行爲となつて實行されるのである。前者は理想化されたる善的性慾若くは善的性交となり、後者は理想化されざる惡的性慾若くは惡的性交となるのである。然らば吾人の性慾に於て、如何なる道德的判斷及び道德的情操が價値意識としての正善であるか、又た正善なる性的動機と云ひ不正なる性交と云ふのは抑如何なる道德的事實であつて、如何なる理想を標準として決定されるのであるか。その道德的標準なるものは何であるかと云ふ問題を生ずるのである。これに對する古來の倫理學者の研究は極めて杜撰であつて、正說として採るに足る程のものが無いが、私の研究によつて彼等の歸嚮する所を綜合して見れば、一夫一婦の和合と云ふことである。即ち夫婦の人格的戀愛と云ふものが性慾に關する彝倫としての道德的法則である。そして此の人格的戀愛に定義を與へれば、一男一女が性的行爲に關して、理想化されたる性慾の實現を求むる合意より生ずる和合である。この和合なるものは、相互の靈肉を裏切らぬ貞操としての至誠を伴ふのである。洋の東西を問はず、時の古今を選ばず、男女の良心に於ては變りが無く、性的欲望に關する萬人の理想としては、至誠的和合即ち人格的戀愛が常に道德的標準となつて、個人の性交の善惡正邪を決する無上大法になつて居る。それて凡その人間の一員たる者であるならば、何人にも一男一女の性慾を理想化したる一夫一婦の人格的戀愛を爲し得るやうに男女の性の上に可能性を天爵として與へられ、それが互に思慕牽引して生命を賭して進むの勇氣となり、苦樂を倶にする社會的連帶の單位となり、人類の文化を無限に進展する原動力と爲るのである。然るに今日まで此の神聖なる人類の性慾は甚だしく惡用され、その本來の使命的意義は沒却されて享樂的のものに化し、その結果として政治、經濟、宗發、道德、藝術、敎育、衞生等一切の文明に關して計るべからざる損害を與へたのである。その主なるものは、第一類としては、一夫多妻、一妻多夫、亂婚、賣淫の思想に由來したのであるが、第二類としては嬰兒壓殺、墮胎及び避妊に於ける産兒制限の思想である。その中で第一類のものは又は嬰兒壓殺及び墮胎は既に今日では性慾の間接的罪惡として目せられ、これを豫め計謀して行ふ性交は、不正の性交として道德上の對象になつて居る。然るに避妊に基く産兒制限のみは獨り取り殘されて居るので、これを不道德と考へざるのみならず、却つてこれを道德として奉じようとして居る。然らば避妊に基く産兒制限は男女道德上より見て、果して正善の行爲であるか何うか。（續く）

其の後の婦人救濟運動（二）

救世軍大佐
廓清會評議員　山室軍平

◇……同じ警察署長が昨年の事であるが
吉原病院に娼妓を集めて訓示をなした……◇

「娼妓の自由廢業を許す規則はあるが、自由廢業杯をするのは不徳義であると云ふ事を云つて、斯う云ふ事はしてはならぬ、救世軍の助力を頼む杯と云ふ事は宜しくない」と云ふ訓示をしたのである。所が其處に聞いて居つた吉原病院の看護婦田口和子が質問があると云つて、立上つて署長を面責したので、署長は大に間誤付いたのである。勿論さう云ふ質問杯をしては病院に長く居られない事は知れた話である、同女は元來さう云ふ積りで這入つたのであるから、其處を罷めた、今は私共の方の大阪の女子希望館に這入つて居る。其婦人は中々確つかりした精神を持つた婦人で、色々さう云ふ方面の事を調べた結果を廓清會の雑誌「廓清」に寄稿して居る。

◇……娼妓の問題に就て御話し掛つた序に
一つの喜ぶ可き現象を御報告申上げたい……◇

それは年々娼妓の數が減少しつゝある事である。近年貸座敷の數は多少殖えて居るが、反對に娼妓の數が減りつゝあると云ふ事は寧ろ不思議の現象である。今數字を擧げると大正三年に日本全國に五萬千九十七人の娼妓が居つた、それが大正七年になると四萬七千八百十二人になつて居る。減つた數が三千二百八十五人である。此四年程の間に三千三百人程の娼妓が全國で減つて居る。之を東京丈に就いて云ふと警視廳の私娼取締が、間接に公娼を奬勵した趣がある、その爲めに貸座敷も娼妓も一時非常に殖えた趣があつたのである。大正五年に東京府に娼妓が五千七百二十五人あつたのが、大正六年には五千八百三十七人となつて百十二人増加して居る。けれども大正七年になると五千五百五十六人となつて、丁度二百八十一人減つて居る。それから大正五年に貸座敷が三百一軒あつたのが、大正六年には四百四十三軒となつて百四十二軒増加し、大正七年には六百九十一軒となり二百四十二軒を増して居るのである。遊廓の數が増し、遊興者の消費高も増加しつゝあるに拘らず、獨り娼妓の數が減少しつゝある。

◇……其理由は時局の影響に依り
婦人の職業が殖えたも一原因であらう……◇

が、教育の普及と云ふ事が最大の原因であると思ふ、娼妓の需要が減つた譯ではないのに、供給のみが減つて居ると云ふ事は、其原因を教育の普及したと云ふ事に歸したいと思つて居る。大正三年以後救世軍の救濟掛の手に掛り五百人の娼

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

妓丈に就て調べて見ると、彼等の教育程度は斯うなつて居る日本では學齡兒童の九割八分以上學校に行つて居る事になつて居るにも拘らず、五百人の娼妓の中で學校に行つた事のない者が、二百二人ある、それから一年丈行つた者が十九人、二年丈の者が四十五人、三年丈の者が五十七人、四年丈の者が九十七人、七年丈の者が十八人、六年丈の者が三十八人、高等一年迄行つた者が五人、高等二年を卒へた者が十八人、女學校卒業者が三人斯う云ふ事になつて居る、即ち全然學校に行つた事のない者が四割を占めて居る、而して六割迄は三年と學校に行かぬ者である、是に若し四年迄行つた者を合せれば實に八割強を占むるを知る可きである。

教育が普及したと云ふ、學齡兒童百人の中九十八人迄は學校に行つて居る、さうすると即ち學校に行かない者は百人の中二人丈けである、其一人は男で一人は女であるとすれば、其學校に行つた事のない一人の女を、何所かの山奥からでも搜集めて來て、それを娼妓にして居ると云ふ趣が見えるのである。近頃娼妓になる爲めに大阪の九條署に昨年六月より今年二月迄に出願した千百九十一人の娼妓の敎育に就て調べたのを見ると、その出身地は臺灣、北海道、朝鮮を除く殆んど各府縣に渉つて居るが一番多いのが高知の百三十名、大阪府の百十名、兵庫の九十四名、愛媛の七十六名、德島の六十九名、美人國の新潟が四十九名等が重なるものであつて其他遠い所では秋田の四名、宮城の五名、山形の六名、ズツト西へ來ては鹿兒島の十三名、熊本の十一名、長崎の二十四名等である。其中女學校程度を終へた者が大阪一名、長崎二名、廣島二名、島根一名合計六名である。高等小學を終へた者が百二十二名、全然無學で目に一丁字すら無い者が二百八十三名と云ふ數を現はして居る、殊に德島縣の如きは六十九名の中三十七名まで無學者を有するが如き狀況である。是に由つて之を見れば娼妓になる者は、よく／＼の無學の者でなければなり得ない時代になつて來て居るのであると云ふ事を證するに足るのである、隨つて此制度の運命も放任して置いても自ら限られたるものであると見るを得るかと思ふ。

◇……次に婦人の勞働の殖えた事である……◇

大正六年度の統計に依れば

工場職工が百二十八萬餘りある、其中婦人職工が七十一萬三千人ある。勞働人夫が七萬五千人程で其中婦人が一萬七千人程あるのである。而して是等の總計二百三萬一千人の勞働者中、婦人が七十三萬人の多數を占めて居る、其他にも婦人の勞働は段々殖えて行きつゝあるのである。斯の如く婦人勞働者の增加して行くと云ふ事は、一面娼妓等になる者が段段減少して行くと云ふ結果になる。隨つて遊廓の衰微に赴くと云ふ事は爭ふ可からざる事實である。

それから今一は兎も角も心ある人々は遊廓に行つて、娼妓等を相手に遊ぶと云ふ事を恥づるやうになつて來たのである、昔は相當名の知られた人が遊廓に行つて遊んだ事を人前て公開する事を、恥ぢなかつたけれども、今では道樂をする事を公然と云ひ兼ねる位の世の中に變つて行くやうに見える世間がそう云ふ風を卑めるやうになつて來たのである。

明治の初年に成島柳北抔と云ふ人が旅行記に各地の遊廓で

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

遊女に戯れた事を詳しく書いてある、「其時代にはさう云ふ事を書いた旅行記が非常に持囃されたものであるが、さう云ふ時代は既に過ぎ去つたのである。併し案外な人がないでもない。私が九州に旅行するに就て何か旅行の事を書いた本がないかと思つて、停車場の賣店で種々搜して見た所が、

◇……思はしい書物が無つたので
田山花袋の「旅」と云ふ本を買つた……◇

それを車中で讀んで驚いた。田山花袋と云ふ人はどんな人物か知らないけれども、餘程道樂をする人と見える、其書中には二十五箇所の醜業窟を紹介して其案内を詳しく書いてあるのには驚かざるを得ない、其或る頁に斯う云ふ事が書いてある、例へば博多の遊廓の所では「柳町の遊廓は一夜遊んで純粹な博多節を聞くのも面白からう」長崎では「丸山の遊廓に行つて、一夜遊んで花月樓に揚貴妃の遺物鶴の枕と云ふのを見るのも馬鹿々々しいが旅の一興でない事もない」又道後の所では「少し行くと遊廓がある藝妓も二枚鑑札で遊ぶには便利だ、それに藝妓や女郎にも綺麗なのがある」と斯う云ふ事が書いてある。唯々「旅」と云ふ本の名丈見ると學生抔が歸省するにも汽車の中で見るのに一寸一冊買つて見る氣になる、而も其内容は前述の通りである、斯う云ふ事が何時まで許して置かれるのであらうか、私は斯の如き人物は旅行案内記者たるの資格の無い者として、全然社會から葬つて貰ひたいと思ふのである。

今や「國際勞働規約」抔と云ふやうなものも出來て「勞働は商品に非ず」と宣明せらるゝ時代に於て、婦人の生命とする貞操を商品とする業務を政府が公に許して置く抔と云ふ事は、何時迄も存續せらる可きものであらうか。「婦人勞働」に就き出産前後に於ける、夜業其他のみが喧しく言はれて、否應なしに前借金と名付ける身代金を以つて人の娘を買占て醜業を營ましむるが如き事を許して置けるであらうか。公娼制度と云ふものは既に内から壞れるのも長くない事である。けれども外部の力を持つて長くない中に、どうしても之を潰さなければならぬ、心ある人々が是に助力をせうものならば、此制度を根本的に葬り去るの日の決して遠きに非ずと云ふ事を確信するものである。

◇……困つた事に娼妓の數が段々減るに
藝妓と酌婦の數が殖えて行く……◇

大正三年に藝妓が四萬四千四百六十九人あつたのが大正七年には五萬四千四百六十二人となり、四年間に九千九百九十三人增加して居る、酌婦が大正三年に四萬四千百九十九人あつたのが、大正七年には六萬二千八百四十人となり、此四年間に實に一萬七千六百四十五人の增加である、是は全國の事であるが、東京の事に就て云ふと大正五年に待合の數が千三百三十八軒、それが大正七年には千四百五十八軒となり二年間に百六十軒を增して居る、藝妓屋が大正五年に二千百六十七軒あつたが、大正七年には二千七百七十七軒となり二年間に六百十軒を增して居る、藝妓の數が大正五年に五千五百三人あつたが、大正七年には七千八百三十四人となり此二年間に實に二千三百三十一人と云ふ大增加を示して居る。

是はどう云ふ譯であらうかと云ふと、日本人は露骨なる遊

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

廓の制度を嫌ふ程度に進みつゝあるが爲めに、公然醜業を營む者でないとしてある藝妓と遊ぶ事を喜ばれるやうになつて來た趣がある、藝妓を醜業婦でない者として今の日本では取扱つて、宴會に呼び、家庭に出入を爲さしめ、自動車を驅つて一緒に旅行をするのである。白晝街頭を彼方此方と徘徊しても、警察は一向に之を取締らない。取締規則はあるが之を行はない、現在東京には八千の藝妓は日夜醜業を營んで居るけれども、規則違反の處分をするのは月に三、四人位のものである。東京でさへ斯の如き狀態であるから、地方に於ては如何なる狀態に在るかは想像に難くないのである。

そこで怎うしたらば宜いかと云ふ問題が起る。私は其方面は餘り能く知らないけれども、警察犯所罰令と云ふものには、「密賣淫ヲ爲シ又ハ其媒介、交渉ヲ爲シ若シクハ容止ヲ爲シタル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス」と云ふのがあるが是丈でも最う少し實行して貰ひたい、刑法第百八十一條「營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ誘拐シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役、又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス」と云ふ事がある、所が藝者屋なるものは法律を侵して居るものが多い、而して若い娘達に醜業を營まして居るけれども、警察邊では知つて居つても之を見逃しにして居るのである、警視廳令には「目立ツ可キ扮裝ヲナシ、道路ヲ徘徊セサルコト」と云ふ箇條がある、けれども藝妓が目立つ服裝をして道路を徘徊して居る、或は自動車に乘つて市中を横行して居る。

◇……今在る丈の規則でも完全に勵行するやうにして貰ひたい……◇

赤坂邊では養女を一軒の家に三十人も五十人も置いてあるのがある。さうして其養女達に親權を以て醜業を強ひると云ふやうな事をして居るのである、併し内務省でも其弊を認めて近頃では二人以上の養女を置く事を禁じた、斯の如く當局者が是等の方面に目を注いで來たと云ふ事は大いに喜ぶ可き事であつて、此方面に對して滿足する事が出來るやうな具體的の事が出て來るであらう、けれども未だ外にやらなければならぬ事が澤山あるのであるが、其等の事は後日に讓るとして此場合私の殊に述べたいと思ふ事は女子の貞操の觀念を強くすると同時に、一方に男子の貞操の念を盛んにして貰ひたいのである。段々藝妓の數が殖えて行くと云ふ事は反面に於て、それを要求する男子の數が多くなりつゝあると云ふ事を證明するものである、故にどうか差當り此所に集つて居らるる男子諸君は藝妓、娼妓、醜婦等を要求しない丈の人物になつて戴きたいのである、今日迄そんな者に觸れた事のある人があるならば、今日を限りに後來永劫に其等の者と手を斷つて戴きたいのである、申す迄もなく藝娼妓等の如き者を跋扈さして置くと云ふ事は婦人一般の恥辱と云はなければならぬのである、畢竟男子の婦人を尊敬する念の乏しきにも原因するのであるから、婦人自らの自覺に依つて男子をして婦人を尊敬させるやうに、婦人と同じく男子の貞操も重んず可きものなる事を男子に自覺させなければならぬ、此所に御集りの御婦人の方の力に依つて、藝娼妓等の如きものを社會に無用の者たらしめん事を切望する次第である。

私は近頃漸く盛んになつて來て居る是等の社會廓清の婦

人運動が、もう少し歩を進めて行つたならば是等藝娼妓の問題を片附けて行く事が出來ると云ふ事を信じて疑はないのである。けれども世間には何等の信念を有せずして是等風紀の廓淸を圖る者があるが、何程の益があるかと云ふ事は頗る疑はしいものがある、根本問題に立入れば斯の如き仕事には私の信ずる限では、怎うしても宗教が這入込んで行かぬならば、根本的に此問題を解決する事は出來ないと思ふ。

◇……近頃生活改善同盟會抔も出來て居る　其等の企は結構な事ではあるが……◇

其生活改善同盟會て發起人が集つてどう云ふ事から改善をしたら宜いかと云ふので色々考へた末、遂に十七箇條より成る箇條書を作られたのである。第一條は禁酒禁煙の事、第二條はステーションに見送りに行かない事、第三條遣物を持つて人を訪ねない事等と云ふ風に十七箇條の箇條が出來た。出來るには出來たが第一箇條の禁酒禁煙と云ふ事は困難であるから、どれても發起人は一箇條守れば宜い事にしやうと云ふ事になつた。發起人が一箇條丈守つて宜いのであるならば會員は何位守つて宜いのであらうか。それて發起人の協議等あつたものと見えて、幹部の方が集つて相談されたのてある。所が御飯時となつたので一緒に御飯を喰べやうと云ふ事になつた、愈々御膳の前に坐つて見ると其お膳の上には一本づつの銚子がついてゐた、すると一人の人が「十七箇條の一番先きに守らなければならぬ事は、酒と煙草を飲まぬ事てはなかつたてせうか」と云つたので、「成程それもさうだ十七箇條の中に禁酒禁煙とあるのに幹部が酒を飲んだては濟まぬから、一層節酒節煙と云ふ風に直さう」と云ふことになつた。斯の如くにして組織せられたる生活改善同盟會は幹部が其中の一箇條を守る事に依つて幹部の一員たる事が出來ると云ふやうな事て、どうして生活改善の實が擧がるであらうか、其生活改善の實行力が足りないと思ふのである。私は小さいながら多年の經驗の上から人間以上の神に連なる事に依つて、其力を得て行きたいと云ふ事を考へるのである。

◇……最後に、私は此處に來てから　一本の手紙を受取つた……◇

廓淸會に來た手紙て封を切つて見ると、地方に廓淸會の勢力が斯う云ふ所まて及んて居るかと思つて、實に愉快に感じたのてある、此人は奈良縣の或る不幸なる家に小さい時分から育つた人物て、大いに奮鬪した爲めに獨立して賣藥業を營むやうになつた、自分は何か世の中に貢献したいと云ふ考へを起して百五十圓の金を貯蓄して、之を以て禁酒禁煙、一夫一婦の實行を奬勵する爲に郷里の學校に書物ても買つて寄附したい、さうして講演會を開いて多少なりとも此方面の廓淸に力を盡したいと云ふ考へから、其趣意書を島田先生に書いて貰ひたいと云ふ相談を私に掛けて來た、そこて私は早速島田先生に御願した所が快く之を御受けになつて直に書いて下さつたのてある。今日の手紙は其手續が濟んだと云ふ禮状を其人から寄越して來たのてある。此處て私は我々の運動が空しからずして思はぬ所に、著々效を奏しつゝあると云ふ事を喜ぶものてある。私は此喜を自分獨りて喜ぶのみならず多くの兄弟姉妹に分ちたいと思ふのてある。(了)

男女共學に就いて

法學博士　山脇玄

□不均等境遇更改の要

今や社會改造は世界の大勢である。

社會改造の先決問題は、今更ら言ふまでもなく教育問題である。其の中に就いて尤も先きに實行せねばならぬものは、國民教育と女子教育、殊に男女共學とであるとは、何人も異口同音に高唱するに違ひない。

歐米諸國では、大戰後著々義務教育年限が延長せられるのみでなく、特殊學校では、細民兒童の爲めに學校で文房具は云ふに及ばず食事までも給するやうな設備が盛に營まれて居る。

之れ、國家が國家自身の爲めに、國民の教育を保證して遣るのである。實に國家は、國民在つての國家であるから、國家が國民生活、殊に國民の教育に保證を與へて遣らんでは其の義務を完全に盡すものとは言へない。

個人は、產れながらにして其の境遇を異にし、極めて不平均な位置におかれてあるのであるけれど、個人の腦力は、決して其の境遇に正比例して長短があるのではない。富家に低能の兒を生じ、貧家に秀才を有する樣な場合は往々見る處である。

之れを自然のまゝ放置したら、可惜有爲の秀才も双葉にして枯れなければならない。是れ個人其のものゝ不幸であるのみならず、國家としても大なる損失であると言はねばならぬ。

故に宜敷國家は、斯くの如き不均等な境遇を更改することに、充分の手が屆かなければならぬ。特に、吾人民本主義を奉ずるものとしては、國家に對して一層強く此の要求を致さねばならぬ。

如斯き努力は、直ちに國家自身の利益となる而已ならず、軈て國家存立、國力充實の意義を爲す所以であるからである然るに吾が國に於ては、其の國民教育が國家からも國民からも、極めて冷淡に扱かはれて居る。

現に政府當局は、戰後教育の改善として、將さに高等教育の大擴張を實行して居る。

□非民本的なる教育

國家としては如斯、一部有產國民に限定された教育機關に力を盡すよりも、大多數の無產國民を對象とする國民教育に一層盡力すべきである。尠なくとも、高等教育より以前に、

國民教育の充實を謀らなければならない筈である。

それも今日、我が國民教育が、相當に進むで居るなら未だしも、我が國民教育は、現在列國に對して著しい遜色を有して居る。纖弱い少年少女が、中學や高等女學校に入學仕樣と爲るに際し、慘酷な試驗の難關を通過しなければならない。特殊學校も非常に不足して居り現在の校室は狹隘を告げて居るのである。

然るに國家が、如斯重大な方面を冷眼視して、專ら高等教育に力を入れるといふ事は、餘り感服し難い遣り方て、是程非民本的な事はない。高等教育の如きは、一々國家の手を俟たなくて、民間に委しても相當に可能やうではないか。今の政治家は、教育擴張などゝいふと、必ず經費不足と言ふ遁辭を以て、責任を回避したがる。是れ極めて橫著な辭柄て、軈て彼等に何等教育尊重の誠意の無い事を證明するのである。

夫れは一寸列國の豫算面を比較しても分る事である。歐米諸國ては、國家歲出の約一割内外を教育事業に支出して居るのに、我が國に於ては、拾貳億餘の歲出中六億以上も軍事費に割いておいて、教育事業に對しては僅か三分五厘すら、尚ほ且つ惜しむて居るのである。

若し今日の我が國が、假令一億圓でも教育の爲めに投ずる樣になつたら、何んなに我が國の教育が向上するてあらうかと考へられる。

□無自覺なる爲政者

吾人は世界永久平和の爲めに、一日も早く人類社會から慘逆な戰爭を、絶滅したいと希ふ者であるから、軍備の撤廢を主張し、國民の教養を期し度いのてあるけれど、今日猶ほ我が國の爲政者が、斯かる自覺に目醒めないのは甚だ慨嘆はしいのである。

由來我國の文明は、獨逸の文化に範を採つたことが多かつたけれども單に獨逸の軍國主義を輸入した位て、他の文化殊に教育を重んずる事などは、殆んど顧られて居ないと言つても宜い。

獨逸は、實際に於て軍事に力を注いだ國であつたけれと、決して夫の爲めに、國民の教育を忘れて居なかつた。同時に絶えず國民教育に、絶えざる努力をして來た國民である。

我が國は、その一面を學んで他の一面を忘れて居る。恁んな片手落ちな事て、國家永遠の發展を期するなどゝは、木に據て魚を需めるより、まだ滑稽てある。

□國民教育重要の理由

今日の國家生活に於て、未だ國境の撤廢されぬ間、軍備を重要な位置におかなければならないけれど、國民教育は、軍備そのものゝ爲めにも、極めて重大な條件を爲すものてある。今日の戰爭なるものは、決して、體力のみに依るものてはない。寧ろ智力、科學の戰爭てあると言つて差し支へない。

從つて無智文盲な軍人よりは、相當な教育を有する軍隊の方が優秀なものたるべきは勿論てある。

軍事上の能率を上げる上から見ても、教育は必須の條件を

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

爲すのである。

將來の國家では、極めて重大な意識を教育の上におかなくてはならぬ。其の國家に於ては、國民は徹底的教育を尊重し決して從來の如き貧弱なものであつてはならぬ。

勿論、義務教育年限の如き、更に延長すべきである。歐米諸國の如きは、我が國の如く國語教授の困難が伴はないにも係はらず、大概八ヶ年以上の教育を施し、英獨の如きは、九ヶ年の普通教育の上に、更に三ヶ年の補習教育をすら强制して居る。

然るに、列國に比して極めて厄介な國語を有つて居る我が國が、今尚六ヶ年の義務教育を遣つてゐて、五大强國の一つだなど〻言つて居ることは、餘りに辱かしき次第ではなからうか。今後の世界は怎うしたとて民衆文化の世界であるから、飽くまで國家教育の、徹底を計らなければならぬ。

今後の世界に於ては、民衆の教育を高めるといふ事が、國家の存立、國力の充實の上に絕對の必要がある。

□他動的他律的の國民

吾が國の社會では、近來頻みに普通選擧の問題や、勞働爭議の解決に、朝野擧つて頭を惱まして居るけれど、此れとてもその解決は、民衆の教育に俟つより外に途がない。

普通選擧の要求も、勞働者の向上も、國民教育が普及されれば、必然起つて來べき問題であり、起らねばならない氣運にある。是れが實現の前提には、怎うしても教育の向上、普及といふ事がなければならぬ。

今後教育の改造を仕樣と爲るものは、深く此の點に注意を拂はなければなるまい。

從來、我が國民は、自動的に働く事が尠なく、儒教、佛教の感化も加つて、他動的に、他律的に、動く事の多かつた國民である。

例へば、君に忠義を盡し、親に孝行を爲るといふことに就いて視ても、彼等に充分の理解があつて、歼うしなければ止み難いといふ自發的自主的の精神から出たといふよりは、歼うすることが善であり、聖賢の途に背かないといふやうに、他の教訓なり、强制なりから出發して居るものが、多かつたのではなからうか。

勿論、吾人は其の故を以て、既往を咎め樣とはしない。

□鞏固な實行力は自主

舊時の鎖國社會に於ては、其れでも宜かつたてあらう、乍然、今後の開國社會に於ては、如斯き無自覺な、自主的でない道德は、通用しなくなつた。

宜敷く民衆は、適當な教育をされて、各其の個性を發揮し各獨自の貢献をなして、社會に對する義務を盡さなくてはならぬ。

發動的で、自主自律の道德であると、吾々の行動に鞏固な實行力が伴ふのみならず、著しくその能率を擧げ得るのである。之れは、彼の徵兵と義勇軍とを比較して見ても、克く分る事である。

徵兵は、個人の意志、個性等を別にして他律し、强制した

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ものであるけれど、義勇軍は、正確に自己の判斷に訴へて、止むに止まれぬ衷心の欲求から出た義務である。前者に比して、後者が大なる能率を有して居る事は、當然であると言はなければならぬ。

徴兵制度を採らなければ、國軍の存在を期し難いといふのは、一面からは、寔に頼もしからぬ現象である。その根本は、實に國民精神の他力的な永い習慣から流れ出て居る。

□注入主義教育の可否

吾人は、如此國民精神の短所を作りなした大な原因の一つとして、德育上の注入主義を數へ度い。

注入主義は、教育上何れに使はれても根強くない。それでも智育に於ては、同時に止むを得ない場合もないではないけれど、之を德育の上に使はれるのは徹頭徹尾謬つて居る。

然るに、從來の德育では、往々にして外部から注入し、強制して機械的に諸多の德目を敎授する傾向が多かつた。從つて兒童生徒の如きすら、自發的に活動する事が尠ない凡て受身の立場に働くといふ傾向を、誘致するやうになつたのは當然である。宜敷今後の教育に於ては、被教育者の個性を尊重し、その意志を枉げないやうに心懸け、獨自の發達を期するやうにしなければならぬ。

教育者は、彼等の發達に對し、指導の役目をしてやれば夫れて可い。從つて教授は、必ずしも學者てなくても宜い。學生生徒の研究に、指導者となり、兄たる事が可能ればそれて結構である。なまじ不完全な智德を至上視して、他に強ひるやうな事をしてはならぬ。

□女子覺醒と共學の聲

元來社會改造の上からいふと、男子よりは反つて女子の方が教育せらるべき必要を多分に有つて居る。

婦人は、子供を教育すべき責任を負ふものである。殊に我が國の如き社會教育機關の絕無と云つて宜い社會に於ては、子女教育の全責任は母の手一つに握られて居るのであるから殊更ら、母たる婦人の教育は重要である。然るに一箇の女子高等教育の機關すら造らず、男女共學をも許さない。先づ高等女學校を以て最上のものとして、國家は他を顧ないけれど、此の女學校の程度では、到底も男子の中學に及ばない。尠なくも其の程度を、男子の中學に引き上げ、その上に高等科を加へ高等專門學校の門は悉く解放して欲い。

开う爲なければ、男女に依つて此の社會の營まれる限り、男子丈けの教育では、到底偏頗な文明しか望まれないといふ事は、勿論であるからである。

最近の婦人問題として、男女共學問題が漸次勃興して、文部當局にも議會にも、此の問題に關する請願が續出するといふ狀勢となつて來た。如斯き問題を誘起せしめた最大の原因は、餘りに不平均な教育を男女の間に施し、其の發展の機會を均等に與へなかつた點に在る。

永い間男女の間を教育的に隔離した爲めに、男子が我儘となり横着になつて、女子を侮蔑するやうになつた曉に、初め

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

て女子が覺醒し、茲に男女共學を要求して問題となつたのてある。

□男女隔離の産む弊

女子の教育を進めるのは、獨り女子特有の天職を發揮せしめる而已てなく、之れに依つて男女を接近せしめる事が、可能るのてある。

人間は、男女兩性に別れて、各自獨特の素質を有し、互に長短相補ふ使命を帶ぶ。夫れ故男女間の交際が、軈て人格修養の上に缺く事の出來ぬ要件となるのてある。

然るに、從來學校は、男女共學といふ此の不思議な、自動的教育法を、只だ風紀紊亂の杞憂から、盲目的に排斥して來た。けれど豈計らんや、その弊害は、反つて男女を嚴重に隔離するに依つて、却つて醸される疑がないてあらうか。

教育上男女を接近せしめるのは、男子をして女子を、女子をして男子を知らしめ、相互を理解せしめる爲めに外ならぬ。

我が國の社會に於ける男子間の罪惡は、その多くは男女の無理解から生じて居る。殊に男女の不平均な教育から男子が女子を侮蔑し、甚敷に至つては、その貞操をすら商品視するやうになつて居る。

我が國ては、青年男女の交際は中々困難て、未だ實行されて居ない。此れ等も女子の教育さへ高めてゆければ、尠こしも心配な事はない。男女間に健全な交際をさせて相互に正當な理解をさせてゆく事は、極めて大切てある。

從來此の様な理解のなかつた爲めに、我が國の結婚は甚だ危險なものになつて居る。何等相互の理解を有たない男女が媒介人の口から聽いた丈けの相手を信じ、形計りの見合ひといふものに賴つて結婚するといふ事は、全く一種の冒險てある。之れてはその同棲生活が旨くゆくのが不思議て、波瀾の起るのが當然だとも言ひ得るのてある。

□男女融合の妙諦

吾人は、此の男女交際の尤も安全な方法として、男女共學主義を高唱せずには居られない。

男女共學主義は、教育者の下とに於て、男女が清い交際を爲すのてあるから、是れ位安全な方法はない筈てある。

外國ては、早くから此の方法を採つて居るけれど、我が國ては、今猶ほ七才にして席を同じくさせない主義て、男女を隔離しやうと企て、國民の中にも斯る陋習に執着する者の多いのは、實に愚の骨頂てある。

その爲めに、反つて大きな弊害を半面に醸して居ることを知らないに至つては、教育者の不明も亦茲に至つて極まれりといふべきてはなからうか。(完)

此れては

—前途遼遠—

本郷區の投票中には羅馬字て書いた候補者三名を連記したのやチヤツプリンと巫戲けたのや『長谷川吉次君に投選す』などゝ振つたのがあつて何れも無效

林田君のは紅裙の運動に因る。其例は最近麻布赤坂兩區内の役人を粋な姐さんが盛に訪問した會つて見ると『林田さんに是非』と來た所が待合や料理屋の女中に頭の上らぬ連中が隨分少くないデ到頭往生させられたのが却々少くないさうだ。(評寶)

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

青年思想の最近傾向

法學博士　吉野作造

私は青年思想の最近傾向と題したけれども、重もに帝大の法律政治經濟の方を勉强して居る學生諸君を標準として、感想の一端を陳べて見たいと思ふ。或る意味に於て帝大の學生は、一般青年學生の代表者たる資格があると云ひ得るが、又或る意味から云ふならば、社會全般より有形無形の恩惠と特權を與へられてゐるから、青年學生の代表者たる資格がないとも云ひ得るのである。

□一般學生と帝大學生

若し夫れ高等學校から首尾善く大學に入學れば、如何に不勉强の者でも遲鈍な者でも、大概其のクラスの驥尾に附して卒業することが出來るから、卒業すれば何と云つても學士である。飯の食ひ外しはないのである。官吏になつても實業社會に入つても、帝大出身の名の下に一の恩惠と特權を社會から與へられて居る。

併しながら此有形無形の特權は帝大のみの專有す可きものでないから之を取り去るべきであらう。故に私立大學の方面より帝大の特權廢止に就いて運動せらるゝのは、至當の事であるが、帝大側の方では一旦得たる特權を奪はれたくないのは普通の人情である爲めか、特權廢止運動に對抗して、特權廢止の廢止運動をなしつゝあるは誠に面白き現象である。斯くの如き有樣であるから帝大學生は總べて現制度現組織に滿足して居るが故に、怎うしても保守的に流れ社會の趨勢に遲るゝ傾向がある。近頃官吏養成所と云ふ汚名は之を免るゝことが出來て、實業社會に出て働くものが大分多くなつたが、併し官吏となる數は假令昔程でないとしても矢張統計上帝大學生が一番多いのである。兎に角私は此帝大學生を青年學生の代表者として考へて見るのである。

□帝大生の迷へる路

最近迄高等學校を卒業して大學に入らんとする學生が、先輩に手頼つて質問したり、又吾々教授に對して質問するのである。吾々が其の質問を受くる十中の七、八は大概同一の質問であつて、私が政治科を受持つてゐる立場より見るならば、非常に不愉快なる質問であつて、吾々の政治科たる商賣が繁昌せぬことを云ふのである。そして彼等が云ふのには、「政治や經濟は議論が粗つぽく話が大き過ぎて、實地に適切ならざる法螺吹きとなる弊がある。然るに法律科は吾々の頭を數學的にし緻密にするのであつて、實社會に緊要缺くべからざるものであるから、私は法律科の方へ參りましやう」斯く申して法律科の方へどん／＼行くのである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

吾々政治科を教ふる者は、學生の人員が多數であつて答案などが澤山の時は、其の煩鎖なるに堪へぬから成る可く學生の數の少なきことを望むが、又九月頃になつて受持ちの學生數が少ない時には、あゝ自分の受持ちのクラスは寂れたと思ふ一種悲哀なる感想に打たるゝのである。法律と云ふものは吾々の頭を細かくするものであると云ふ觀念は、吾々の學生時代より最近迄學生の頭に深く刻まれたものであるから、私なども法律の力を加へる爲めにチャールス・スミスの代數學を熱心に勉強したものである。昔から傳統的に「法律は頭が細かくなることが出來るが、政治經濟の方は話が非常に大きくて頭を粗大にするばかりだ」との觀念が大分あつたので、其の意味の問合はせの手紙を毎年四五月頃多く受取つたのであるが、一昨年頃から夫れがなくなつた。

□思想の表現たる答案

今日の學生諸君に會ふて見ると、民法第一條に於て「私權の享有は出生に始まる」とか、債權篇に規定の債權は何うてあるとか、或は又刑法に於ける稱々の罰則の區別が何ふてあるとか云ふものには餘り興味を持たぬ。況んや刑事及民事訴訟法の如きものは、辯護士か裁判官にならなければ餘り必要のない乾燥無味のものであつて、猶ほ更感興を持たぬは當然である。故に屢學校を休んで下宿屋にクロポトキンやマルクスの著書を見て居るかも知れぬ。要するに最近の學生は著しく哲學的及道德的素養がある。之は高等學校時代より其の方面を勉強して居るに違ひないと思ふ。從來はノートを善く讀んだものだが、眞正に徹底的に理解して居らぬ。譬へば私の平素用ゆる文句を答案の所々に引用して提出するが、ノートの寫し違ひが往々にある。一例を擧ぐれば七月革命と二月革命と如何なる連絡があるか、又何れが早きか何年位の間隔があるか、又歷史の大局から見て如何なる連絡關係があるかと云ふ樣なことは一向理解して居らぬ。甚だしきに至つては講義の際ノートに筆記することを怠つて、他の學生の謄寫文を借りて謄寫し、二重の寫し違ひをするとがあるのである。

然るに四年前に始めて私共の講義を批判的に見て答案を出した者が一人あつたので、非常に珍らしく又喜ばしく思ふて、態々其の學生に面會して親しく意見の交換をしたが、昨年と本年はそれ以上の見識を有する學生が非常に殖えて來た。私は一年生を受持つて居るから、それ等の學生が高等學校時代より哲學的及道德的素養があつたと云ふことを充分に推測することが出來る。私は近き將來に於て是等學生諸君の論文を編纂して發表しようと思ふが、却々立派なものがある。そして是等學生の多くは獨立の研究によつて、相當の見識を有してゐるから、大學の教授と云はるゝ先生の方が之に對抗することが出來ず、大恐慌を來してゐる方面がある。要するに最近青年思想の傾向は、總て全體として活ける社會を見、國家を見、世界を見る精神が勃興してゐるのである。

□法文に拘泥する弊害

法律は既に定められたものを後生大事に守り、其の範圍内に於て研究するのであるが、實際的大效果が何れ丈けあるか頗る疑問である。例へば民法第何條に斯うあるから事實はこれに當ると認むるのである。卽ち出來たものを演繹的に考ふ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

るのである。そして分析的に究め來つたのである。故に例の朝憲紊亂問題の如き、若し非常識の考へを持つた裁判官や檢事の手に掛るならば飛んだ事になるのである。譬へば警察犯處罰令に「頭の禿げた人は帽子を冠れ若し冠らぬ者あらば五十錢の科料に處する」とあると假定して考ふるに、第一に禿頭とは何ぞやといふ問題が起る。一本もないのは勿論禿頭であ、るが、一本あるものは何うだ。百本又は千本あるときは何れに入るか定めなければならぬ。丁度アルコールは一〇パーセント以上あるとかないとかに依つて、其の區別を定めなければならぬと同じ樣なものである。假りに髮の毛が千一本あれば禿頭でないとしても毛の大小に依つて著大の相違がある。要するに法律の如きものも事物の全體又は大局に眼を注ぎ心を傾けて行かねばならぬのに、法律家は何うも融通がきかないで唯條文にのみ拘泥する弊があるのである。又微罪を餘り嚴重に罰すれば却つて刑罰の目的を裏切ることとなる。之は大に司法官行政官の手心を要することである。今日迄の日本は法文に拘泥し嚴重苛酷に過ぎた弊が確かにある。吾々は此弊を打破して社會の法律的秩序を維持すると同時に、健全なる發達を期さなければならぬ。今迄は法律の内にぐちよぐちよして居つたが、今度は内でなく外より見る樣になつて、根本的に批判する樣になつて來た。そしてこゝに各方面に於て改造論又は改造の實際的要求が出て來た。又世界は日本の地位に目醒めて來た。然して帝大の先生は學生の質問を怒る人があるが、是れは教室としては泰平であるけれども、社會としては駄目である。今迄の樣な考へ方又は遣り方では根本的問題を解決することが出來ないのである。

□喜ぶべき最近の傾向

故に現今の靑年學生は先づ現制度の實際的效果に就て一種の疑問を起し、道德的效果に著眼し、之が改造に就ても道德的見地に目標を置く樣になつて來た。今年帝大學生が提出した政治法律と道德との關係に就ての論文を見るに、社會の理想とか、國家の理想と道德的關係とか申す題目の下に論述する論文が甚だ多いのである。そして夫れは今迄の制度思想などはいけないと申して不滿を抱くのであるが、若し當局者が此不滿を捕へて直ちに危險思想なりと看做すとせば、是れ實に大なる誤解であり謬見である。彼の勞働問題の如きも、勞資協調を全ふすることに由つて經濟上の鞏固なる發展が成し遂げらるゝのである。吾々は其の不滿の底には、尊き道德的動機のあることを看取しなければならぬ。私は此意味に於て學生諸君の不平不滿が道德的に集中する傾向のあることは、諸外國に比するも珍しきことである。

兎に角是等の諸問題は先輩の啓導を要するも、一つには研究的精神の勃興を歡迎し、二つには各自獨立の見識に依つて批判的に決定する風潮を振作し、以て終局の目的を道德的に置くことを努めねばならぬ。然るに保守派の人々が何も彼も拒み卻け恐るゝと云ふとは、非常なる心得違ひであると云はねばならぬ。そうであるから吾々は此保守派の人々の反省を求むると同時に、進步主義の旗幟を鮮明にし、大なる新天地に勇進する精神を助長せねばならぬと思ふ。

（文責記者）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

理想選擧の前途

成女學校長
廓清會理事　宮田脩

◎今次選擧の結果

私が此の度行はれた衆議院議員の總選擧に當つて、候補者として、且つ理想選擧を標榜して此の選擧に臨んだことは、既に前號本誌上に於て述べた如くである。

其の結果は、既に新聞紙の報道した如くであるから、讀者諸子に於かれても私が落選したことは、夙く知悉せられて居らるゝことゝ思ふが、私は最初選擧に臨むに當つて、全然當落を考慮に容れて居なかつたのであるから、いま僅か四十八票の得票のもとに落選したからとて、私自身としては聊かもそれを殘念であるとは思つては居らないのである。

唯だ懸念に堪へないのは、それが爲めに理想選擧は、將來に於ても全然見込が無いといふやうな觀念を一般に持たれはしないかといふことと、折角投票をして呉れた人々に、餘りに票數の尠きに落膽せしむるやうなことはないかといふことである。

◎得票の尠き理由

私の立つた牛込區には、定員一名に對して五名の候補者があつた、そして其の中の三名は殆んど互角の勢力と一般に見做されて居つたのであつた。當時或る選擧通は左の如き觀測談を爲したのである。

——某、某、某三氏は殆んど同數の票を得て大なる差を生ずることなかるべく、尤も劣勢と見做されて居る某氏とても百票内外を得るは容易なるべく、理想選擧を標榜せる貴下の得票も三四百を下ることなく、結局は法定數に滿つるものなくして當區の選擧は、再選擧となるべし——とのことであつた。

然るに當選の譽は三木君之れを荷負うて、他は悉く破れ何人の豫想も肯綮に當れるものはなかつたのである。

所謂三氏なる人々の競爭は非常に激烈であつたことは事實であつた。今私はその具體的説明に觸るゝことを欲しないが、明かに私に投ぜらるべき票のそれ等の人々に投票せられたものも決して尠くなかつた事は事實である。

私の理想を尤も克く理解して居る、而かもその前日まで明瞭に私の爲めに投ずべきことを告げて居た或る識者は、「遺憾ながら今回は、斯々の事情の下に私の一票が足らなければ某は落選の憂き目を見るといふことであるから」と態々斷りに

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

來て呉れた。それは强ち此の人一人ではなかつたのであつて斯くの如くして他へ投ぜられた爲めに吾が理想選擧の共鳴者の數の多かつた割合に投票は甚だ寂寥であつたのである。

◎目的の一は達す

私は理想選擧を標榜して立つたと同時に、敎育の普及義務敎育年限延長の宣傳を主旨とし、此の二つの目的の爲めに立つたのであつたが、或る候補者の如き全然當初から敎育問題など風馬牛視して居たのであつた。戰漸く酣となるや、俄かに敎育問題に關する意見書を印刷して有權者に配付したのである。

それは明かに敎育問題に就いて何等考慮を拂はないといふことは、啻にその候補者自身が片身狹く思ふやうになつたのみならず、有權者全般に亘つて、斯くも識者の間には敎育問題に耳を假す影響の生じて來たからであつて、此の點は大いに我が意を得たのである。卽ち私の立候補の目的の中の一つは達せられたのである。

◎理想選擧と選擧人

私は落選した、落選したけれどもそれが爲めに選擧人の悉くが眼醒めて居ないとか、或は理想選擧が全然無望であるとは思はれない。

選擧人は一般に從來の選擧に飽いて居ることは事實である尠なくも有識者階級の人々にはそれが顯著である。從つて私の所へ來る手紙など種々なのがあるが、その一つに就て大要を述ぶれば、

『之れに落膽しては不可い』とか或は、

『さらに捲土重來の勢力を以て進め』とかいふ風なのが澤山に來るのであつて、匿れたる應援者も澤山にあるやうである。だから決して私は、理想選擧が全然無理であるとは思はない二回三回四回と落選の回數を重ねて往くうちには、屹度聽ては目的の彼岸に到達すべき時機あるを疑はないのである。

◎更に戰はざる可からず

唯だ物足りなく思はるゝのは、主義の宣傳に當つて思ふやうに演壇に立つことの可能なかつたことである。

怎うしても演説は回數多くせねばならない。而してまた得票の强請若しくは、奪ひ合ひに涉らぬ範圍に於て、眞に我が理想の宣傳の爲め各選擧人に就いて、個々に宣傳し、主旨の討論の必要もあると思ふが、何分にも健康の勝れない爲めに、一切演説は醫師の勸告に依つて止められたことは、痛恨事であつた。

亦戸別訪問といふことは、投票の奪ひ合ひ若しくは强請でなくして、單に自己の政見の發表、理想の宣傳の程度ならば決して理想選擧の主旨には反しないと思ふのである。

實際に於てその程度にまで進まなければ、我々の理想を民衆に深く宣傳し、眞に選擧界の廓淸を所期するといふことも中々容易でない。兎に角上述の如く一つの目的は達することとを得たのであるから、私共はさらに幾回でも戰つて理想の實現に努力せねばならぬ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

飲酒と變態心理

帝大教授
醫學博士　片山國嘉

□酒は萬病の母である

酒といふ語源は、『榮える』といふ語の轉訛であつて、これは迷信である。而かも長い間の迷信である。その迷信が今日尚ほ非常に流行して、冠婚葬祭などの儀式の時、その他の場合に用ゐられて、之が社會を支配して居る。多數の人の迷信を支配して居るのである。

而して酒は百藥の長である、藥の中でも一番善いものてあると言ふ人もあるが、寧ろ萬病の母てある。

現今醫學上、藥物學上、酒といふものはある、卽ち酒精がある。

然し醫藥としては、何ういふ場合に用ふるかといふに魔醉劑てある。けれど果してそれが百藥の長であるか、何うか。

醫者が酒精を用ふる場合には、適當に調合して用ふる。けれども酒に至つては、日本人は浴びる程飲む。

醫藥上阿片なども必要てある、けれど矢鱈に呑んて可いかどうかといふに、中々开ういふ譯のものてはないのてある。

□酒は魔醉毒である

一般國民の衞生上、毒物學といふ方から言へば、魔醉毒の中てある。醫者が用ふる場合は、適度に調合して用ふるから毒にならないが、一般の人が用ふる場合には、毒となる場合が多い。

そして、その害は飲んだ人計りてはなく、子孫までも影響して、身體關係は別としても、神經上の影響を及ぼすのてあつて、犯罪を誘起する性質を酒は持つて居るのてある。

殊に青年の注意を要する。我々は過がないと言つても、それは嘘てある。第一物事に對して注意力が鈍る。

□慣ひ性となる

人類が酒を好むのは、生れ付き好かといふに、最初は吐き出さないまでも、甘まいと思つて飲むものはない。先天的に好きなものはないのてある。

如何なる人が酒を飲むやうになるかといふに、親の不注意から初まるのてある。例へば『今日はお祭りてあるから』と言つて飲ませ『今日はお正月だから』と云つては屠蘇を飲ますといふ風にして或は之れが『お父うさんの盃だから』とか、或は『之がお兄さんのだから一杯飲め』と言ふのが初めて、次

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

第に嗜むやうに仕込まれるのである。

而して小學校に往く樣になつて存外の子供が出來る。これは親の不注意なのである。それが中學時代、大學時代になると立派な飲酒家となり『怎うだい一杯遣らうではないか』といふ風に、料理屋へ通ふやうに習慣付けられるのである。習慣は第二の天性である。而して怎うなると中々治らない、此處に注意を要するのである。而して『下戸の知らない何んとも言へない甘い味がする、可愛そうなものである』と言ふやうになるのは、天性の然らしむる處である。

□頭腦の善い筈はない

飲酒は、お神酒だ屠蘇だと飲ませなければ、知らないのてあるが、何んだ斯だと言つては飲ますその間に、漸次覺えるのであるが、然しその習慣が淺ければ、治すことも可能る。少年、青年に禁酒の必要な譯である。生活に不必要なものなら、習慣付けられない中に廢すべきてある。

酒は多量に飲むと、害になることは誰れも知悉して居るが少量だと頭腦の具合が宜いと謂ふ者があるが、左樣なことはない。亦一杯呑むと元氣が出ると言つて『一杯元氣て』といふ人がよくあるが能率の増すとは無い。唯だ一時元氣が善い丈けてあるといふことは、心理學上の實見から證明される。少量でも刺戟となり、多量なれば凡ての仕事は不可能い。

□能率は減退する

宴會などへゆくと、最初の中こそ酒の味も承知して居るが醉が廻ると、次第に味覺の作用が鈍つて酒の味も分らなくなる。運動家などても、飲酒したあとは、充分の動作が不可能いといふ。

それは、五管が魔醉作用に依つて鈍くなるのてある。兵隊が射撃するにも、眼は確かても手の筋肉が鈍くなれば彈丸が的に中らなくなる。此れは五管の働の鈍くなつた爲めてある。

酒の害は、第一智覺が鈍くなる。受付けが曖昧なれば、次の感覺が鈍る。感覺が鈍れば、觀念の不確。加之既往觀念の連合は不確て、旺んなるは感情のみてある。故に、判斷、決意が不確となる。それが運動行爲に表はれるのてある。

□酒の結果の變態心理

飲酒の結果は、上述の如き種々なる障害を來たして居る。然かも『何んとなく愉快てある』といふ、之れは酒に捕はれて居る人の語てある。實に此れは、個人の問題てなく國家の問題てある。人種改造問題上にも必要なる條件てある。

人に飲酒を奬めるといふことは、人を優遇する意味てあるか、之れを正當に解釋したならば、宜い事とは言はれない。

社會は共同生活をして居る以上、人に惡いものを與へ、奬めるといふことは、尠くも實行上の德義に反することはないか、今や米國は、世界第一の禁酒國であるといふ、希くば我が國をして米國に次ぐ第二の禁酒國とし度いものである。

(文責在記者)

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

不良少年の研究

立教大學長 哲學博士
廓清會評議員 神學博士 元田作之進

一 不良少年の種類と體質

不良少年とは少年にして犯罪的傾向を有するもの又は少年犯罪者として取扱はれたるものを云ふ。これに二種類ありて一を硬派不良少年と呼ばれ、他を軟派不良少年と稱せられて居る。前者は多く團體を造り徒黨を結び、何組何團と稱して組織的行動をなして居る。德川時代の俠客、最近の博徒、仕事師等のそれに類似した行動をなすのである、社會の秩序を破壞する所の犯罪的行爲もなすが又團體の中には一種の義俠的精神もある樣である。强迫、鬪爭、殺傷等は此派の不良少年に依つて行はるゝ罪件である。後者は一人一黨であつて其なす所も又趣を異にして居る。彼等は軟文學にかぶれ、活動寫眞に無上の興味を有し、竊盜、萬引、無錢遊興、子女誘拐等の罪惡を犯すを例として居る。

此等の不良少年が日本に幾人あるかは不明である、或人は八萬人と云ひ、或は十萬人と云ふ、坂口警部の計算に依れば東京だけに五六千人はあるべく、全國には其十倍の不良少年あるべしとの事である。

不良少年には身體の上に普通の人と異つた所があるものが多いと云ふ事である。頭形の形態異常、眼、耳、齒又は生殖器の異常畸形等である。凡てが斯くの如き變質徵候を有して居ると云ふのではないが、かう云ふ種類のものが普通の人に比較して多いと云ふ。又斯くの如き異形を有するものは悉く不良少年であると云ふのでもない、杉江醫學士の報告に依ると、最近（一九一二年）グルーレ氏が百〇五人の放任兒童に就て調査したるに其中に七十七人卽ち六割八五は變質徵候を有して居つた。メンケメルレル氏（一八九九年）は感化院生徒中普通者八十三人に對して變質徵候を有するもの七十八人を發見した。リツォール氏（一九一〇年）は感化院生徒七百八十九人中其四割五九は矢張變質者であることを證した、橫濱監獄小田原分監でも少年受刑者百七十人中其八割四二は身體に變質を有して居つた。

不良少年には夜尿病あるものが多いとの事である。又視力及聽力に故障を有するものも比較的に多いとの事である。

身體に特別の變質なきものも、一體の體格として虛弱なるものの多く、營養も不良なりと云ふ、小田原分監の大正五六年度の調査に依れば體格甲種のもの一人に對して乙種が六十九人、丙種が二百八十八人、營養の點より云へば上等六十四人に對して中等百五十六人、下等百三十八人であつた。又我國にて壯丁の合格者は百分の三十六であるに、不良少年の合格者は幾百分の一にしか當らぬと云ふ。

二 不良少年の精神と彼等の犯罪

不良少年の中には身體に體格虛弱及變質徵候があるのみ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ならず、精神に異常あるものが少くないと云ふ。前のグルーレ氏は百〇五人の不良兒中其四割五分だけが精神健全者てあることを發見した。メンケメルレルは調査不良兒の四割一分は尋常の精神を有するもの、クラーメル氏は六割一分が病的なること、シュニッチエル氏は六割二分が精神異常者なることを發見した、精神異常者とは精神薄弱者、癲癇、ヒステリー、病的人格者、其他狹義の精神病者が含まれて居ると云ふ。

日本の監獄にて調査した所を見ても同樣の結果を示して居る。小田原分監にて調査せられたるものを見るに大正四年より六年に至る三ケ年間の少年新入監者五百二十八名の中普通者が、三百三十五名、精神低格者百六十六名、白痴及痴愚二十五名、癲癇九名、神經病者一名、精神病者一名とある。

又不良少年の罪名として小田原分監の調査を見るに、普通犯罪人の場合には窃盜、賭博、詐欺、横領、傷害、文書印章僞造、贓物に關する事、殺人、放火、强盜の順序であるが、少年囚の罪名は其百分比例窃盜八〇、横領放火各五、詐欺恐喝四、强盜三、文書僞造一てある、賭博が少くして放火强盜が比較的に多いのは犯罪少年には痴愚や精神低格者が多いからてあらう、馬鹿ては賭博などが出來るものでない。然し是れは僅かに一分監の調査てあつて刑の執行猶豫になつたものや、不起訴の處分を受けたものや、感化院に送られたものや、其他犯罪性を帶べる無宿浮浪の少年等を總括的に調査したならば或は其順序を轉倒するかも知れず又新しき罪名を擧ぐる事にもならう。

大正六年度北海道廳保安課の統計に依れば盜癖ある者男三百六十四人、女六十七人、婦女に追從して猥褻行爲あるもの男五人、良家の子女を脅迫又は誘惑する者五人、賭博をなすもの男一人、遊里に出入金錢を浪費する者男十一人、新聞記者を利用して不正行爲をなすもの男十一人、暴行又は鬪爭を好むもの男三人、各所放浪して家業を修めざるもの男十九、女二人、交通上妨害を企つる者男一人、詐欺をなす者男七人、女四人、興行場へ無料侵入行爲あるもの男一人、活動興行場に至り金錢を浪費するもの男四人、長者の命に從はず我儘にして不正を爲すもの男二人、此合計四百三十五人、女七十三人であつた。

三　彼等の家庭と不良行爲の原因

不良少年は私生兒に多いとは一般に信ぜられて居るが、單に私生兒であるからと云ふよりも私生兒として成長し兩親より適當なる保護敎育を受けざるよりして不良性を帶びるに至るものが多いと察せらる。兩親の不揃なる家庭に生育したるものに多いのも之れが爲てある。之れに反して不良少年が兩親が揃つて居つても長男や末子や獨り子に多く、又祖父母に育てられたものに多きは確かに過愛に陷るの結果にして敎育上大に注意すべき問題てある。

家庭に犯罪者あるときは其子弟に惡影響を及ぼすべきは明白てあつて前科者たる父母は子に對して威嚴なく兄に不良者あらば弟又之を習ふは已むを得ざることてある、高島平三郎氏は不良兒童の生ずる原因は甚だ複雜てあつて例へば親の精神病や結核、黴毒、淋病、飲酒、貧乏生活、贅澤生活等は其

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

主なるもので、即ち子供を生む前の親の生活狀態が大に關係するのであらうと云つて居る。東京感化院教師の田村靜明氏は不良の傾向を帶びて來るには種々原因がある、大體に於ては家庭で子供の心と親の愛が離れる時に最も生じやすく、上流社會などで家庭教師や乳母女中に養はれ兩親の愛に乏しい爲めに不良性を帶びる場合が少くないとの事である。之れに依つて見れば家庭が不良少年を造るに二種類ある、一は愛の缺乏で、一は愛の過重である、過ぎたるは及ばざるが如しとは此事である。

大正六年度北海道廳保安課に於て不良少年男四百三十五人、女七十三人に就き其動機を調査したるに、

一、活動寫眞の惡感化	男三十二人	女三人
二、惡友の誘惑	男九十六人	女三人
三、新聞雜誌其他出版物の刺戟	男四人	
四、衣食の不滿足、	男八十三人	女三人
五、家庭の紊亂、	男六十一人	女十人
六、繼父母の冷酷なる養育、	男十九人	女三人
七、親權者の監督不行屆、	男八十八人	女十三人
八、父母の惡風感化、	男十人	女三人
九、親權を行ふ者なきこと、	男十九人	女一人
十、虛榮心	男五人	女一人
十一、父母の過愛	男五人	女一人
十二、他家に被雇中の惡感化、	女一人	
十三、養父母の冷遇、	男二人	女一人
十四、父母の愛情の薄きこと、	男一人	
十五、先天的、	男五人	女二人
十六、親戚に寄食中冷遇を受て、	男一人	

である、不良少年の不良行爲をなす原因は大體何れの地に於ても同樣であると考へて然るべきである。

四　彼等の都入と家出の動機

不良少年が地方よりも都會に多きことは一般に認められて居る事實である。然し都會に生れたものに不良少年多しと云ふ譯ではない、地方少年が都會に來つて不良少年となるのである、工業商業が都會に發達して地方の少壯者を吸收するの傾向を來したるのと、交通機關が益々便利になるに從つて地方より都會に移動する事が容易になり、農家の少年が深く考へずして都會に來り、豫期に背きて思ふが如く職業を得ず終に浮浪少年の群に投ずる者あり、或は空想と好奇心に富む少年が父母長上の監督を脱して都會に來り、強烈なる誘惑に負けて不知不識犯罪に陷るものあり、或は罪の發覺を恐れて都會に逃れ來り身を隱して其惡事を繼續するものあり、或は不愉快なる家庭より脱せんが爲めに都會に來り獨立の職業を求めんと欲して其目的を達し得ず終に墮落するものあり、或は眞面目なる考を以て勉強する爲めに都會に來り、中途惡友に誘はれて不良少年の群に引き入れらるゝものあり。都會は誘惑多く又惡少年多くして、故郷を去り父母親戚の監督を離れて來る少年を引き込まんとして居る。相當の監督者なくして子弟を都會に出すことは頗る危險である。

豐多摩監獄入監者丁年以上二十五歳未滿のもの特に浮浪的性格を有する百二十八名の調査（大正八年七月より同六年六月まで）を見るに彼等が家庭を見捨て都會に來つた當時の狀況は左の通りである。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

(一)、就職或は奉公の希望二十九人、(二)、東京へ來て見度なつたもの十七人、(三)、苦學成功の目的十三人、(四)、犯罪ありし爲め十三人、(五)、家業或は家庭を厭ひしもの十二人、(六)、酒色と怠惰との爲め十一人、(七)、家庭不和の爲め八人、(八)、家に歸りにくくなり七人、(九)、出稼ぎの爲め七人、(十)、學校入學の爲め五人、(十一)、知人親戚を便りて五人、(十二)、養子に遣はされて一人。

此等百二十八名の中許可を得て家を出でしもの四十六名無斷にて家を出でしもの八十二名である。前者の場合は保護者あるものが三十九名で保護者なきもの七名、後者の場合は保護者あるものが九名で、保護者なきものが三十七名であつたと云ふ。

五　不良少年の年齢と教育

東京市養育院井之頭學校にては入院生徒を竊盗兒、浮浪兒、怠惰兒、亂暴兒の四種に分ち、大正六年度在院者八十六名の入院當時の年齢を左の如く報告してある。

八歳一名、九歳二名、十歳五名、十一歳四名、十二歳十四名、十三歳十五名、十四歳二十名、十五歳二十一名、十六歳二名、十七歳一名、十九歳一名

豐多摩監獄に入監せる浮浪少年が初めて家を出でし時の年齢は、

十三歳二名、十四歳四名、十五歳五名、十六歳七名、十七歳十六名、十八歳十八名、十九歳十九名、二十歳十二名、二十一歳十八名、二十二歳十二名、二十三歳九名、二十四歳五名、

小田原分監の統計は、

十五歳五十名、十六歳七十八名、十七歳百十五名、十八歳百〇八名、十九歳四名、二十歳二名、二十一歳一名

此等の表に依れば十七歳十八歳と云ふ年齢が最も危險なる時期である。此時期に於て空想が動き、好奇心が生じ冒險思想が發達し、性慾的本能が熾烈となり、自由獨立の生活が欲しくなり、自信力が強くなり終に家を捨て身を誤るに至るのである。

小田原分監入監少年六百八十二名の中

更に教育を受けざるもの	六十一人
尋常小學を卒へざるもの	四百〇五人
尋常小學を卒へたるもの	百十四人
高等小學を卒へざるもの	五十一人
高等小學を卒へたるもの	三十人
中學を卒へざるもの	二十人
中學を卒へたるもの	一人

是れ僅かに一分監の統計に過ぎず、之れに依つて不良少年と教育との關係を充分に歸納することは出來ない。此表に依れば教育を受けざるものよりも教育を受けたるものに多いことを示して居るが、然し元來が我國の子供に全く教育を受けないと云ふ者は極めて僅少である。百中九十八九は小學校の就學兒童である故に統計の面にては無教育者の不良少年が少ない樣に見えても、實は比較的に多い事を意味して居る。結局教育の進むに從つて不良少年の數が少くなると云ふのが順

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

當の解釋であると云はねばならぬ。

六　不良少年の不良手段と感化

不良少年の種類に從つて其活動振りを異にして居る。硬派の不良少年には團長があつて絕大の權利を有して居る。一たび其團內に引き込まるゝや、最早籠中の鳥であつて脫出することは頗る困難である。彼等が如何なる事を作戰計畫するかは絕對秘密であつて、誰れも之を知ることは出來ぬ、團員にして若し之を他に洩すことでもあれば非常なる制裁を受くるのである。其團員をして家の物を持出さしむ、金滿家の子は彼等が特に引き入れんとする所である。殊更に喧嘩を吹きかけて巧みに團中に加名せしむるに至ることもある。

軟派の不良少年は同趣味の友達はあつても、硬派の如く强固なる團體を組織しては居ない。彼等の活動振りも個人的である。硬派生は服裝に無頓着であるが軟派生は身なりを造つて居る。一は小豪傑を氣取り一人は小紳士を氣取つて居る。活動寫眞館、寄席、緣日、飲食店に出入して縱橫自在に活動する。夜行電車などは雜沓する程彼等の好む所である。强迫狀を富豪の家に送る、艶文を婦女子の袖に投ずる。虛僞を云つて家庭より金を卷き上ぐ、時には年少者の外套を橫奪する事もある。曾て噂せられたる臀肉切りとか婦人の下げ髮切りとかは彼等の行爲である。彼等は刑事巡査の顏を覺へて居る。之れを見たら直に姿を隱す。

不良少年も亦我國民の子弟である、若し彼等が爲す儘に放任し置かば彼等は犯罪靑年となつて社會秩序を亂す事になる是れ彼等自身の不幸のみならず、國家に取つて不幸なる事である。殊に彼等が不良少年となりし原因を思へば同情に堪へざる事も多くあるのである。今日不良少年の感化事業は道府縣立二十七、市立一、私立二十六、計五十四あつて、千五百六十七人の少年を收容し約三十萬圓の經費を年々投じて居る誠に喜ばしき事であるが、不良少年の感化はこれで充分と云ふ譯に行かぬ、家庭に於ても、普通の學校に於ても又社會に於ても一層注意して斯くの如き犯罪的卵子を世に造り出さぬ樣にしたいものである。

回勞働爭議と失業回

財界の動搖は夫々各方面に影響し一時頻出の各種勞働爭議も最近漸次減少し却て失職者を出すの現象を見るに至つた今市內某會社調査課最近の調査に基き勞働爭議と失業者に關し本年一月より四月に至る統計を示さば左の如くである。

（△印は失職）

（年　月）	（事件數）	（加盟員數又は失職者數）
一月	一六	一八、二八五
二月	二七	三九、一九八
三月	一七	一一、六四六
四月	一六	一七、五四八
△	八△	五、七八二

次に之を事件種別並びに原因別に擧ぐれば

▲事件別

九年	一月	二月	三月	四月
不認	四	八	七	一〇
怠業	二	三	二	｜
罷業	一〇	一六	八	七
事業縮少	｜	｜	｜	△三
休業	｜	｜	｜	△三

▲原因別

	一月	二月	三月	四月
增給	一〇	二〇	一三	七
時間縮少	三	五	六	｜
待遇改善	三	一三	六	八
賃金減少	｜	｜	｜	二
其他	八	五	五	一一

尙一月より四月末に至る各種事業々別總數を揭ぐれば次の如し

事業別　鑛業（石炭八、銅三、鐵一金銀二）計一四　工業（機械製造業一六、造船業四、紡績業三、化學工業九、其他二二）計五四　交通其他（電鐵八、通信一、海運七）計一六

苦る輪物語（二）

前某驛病院看護婦　田口和子

■■呪詛の焰■■

「身受けするのに都合がいゝやー」だつて、坂上さんは、自暴自棄を起して、私が三隅さんに身受される樣に話が運んでたのを邪魔する計りてなく、殺すんだつて何時も家樓の前まで來ては、仕込杖を拔いて、振り廻り、如何な私も、恐ろしくつて、お湯に出るのも、お母あさん（樓主）が、蔭にかくれて行つてたのよ、私、實際そふ思ふわ。私等の身こそ、今日在つて明日無い命だと……だつて、客に依れば、自分に事情のある爲めに、刄物を持つて遊廓に登樓し無理心中を迫つたり、默つて床の下に忍ばせて、不意に、切りかけたり、昔は私等の親達も、子に、劍の山を渡らせて、眺めてるのも、同じ事てすもの」何たる悲痛な言葉だらう私は、之を、無意識に、云つてる辭として、捨てる事は出來ない彼女等が斯く、無雜作に云つてる、言葉の中には、如何に深刻な深長な、意味を含んで居るてあらう。

■■生ける形骸■■

師走下旬の或る夕過、人は樂しみて待つ可き正月を眼の前にひかへて入院した小菊さんは「正月だの、盆だの、いや、旗日だ、お祭りだと、云つては、それを紋日にして（紋日とは平素より改まり紋附きを着て店に出る所より出た名稱て、此の日は客より其揚げ代を、平素の倍取る）自分等は法外な金が手に入り、氣まゝにどこでも行つて遊び廻るが、私等は斯んな日程忙がしい目を見なきなあならぬもの揚げ代なんか爭ふたかつて馬鹿らしいこつた、千本祝だの褒美だのつて糞面白くもないや、人を三つ兒扱ひにして客を取らさふ〳〵とかゝつてさ、三圓四圓のはした金どこを叩けば有難いか、フン！あんな事でお職爭ひなんかする人たちの心が知れないや私等斯うして入院した方が、何ぼ可いか知れない何ぜつて！第一同じ畜生の鑑札持つて居乍らもこゝだつたらあからさまに動物園の象や熊見たいに檻の中へへつたり並べさせられる世話も無しさ奥（樓主の家族のこと）や仲居やお茶屋なんかへも饒張て歳暮物をする世話もないじやないですもの」と、千本祝ひだの褒美だのといふのは各樓主が話合の上一入りの妓て千本即ち一月千回客を上げた者云ひ代へれば千人に接した者と云ふわけて、斯ふした者を彼の社會ては天晴れの腕前として賞讃し家の內は無論のこと各遊廓爭ふてけん番又は事務所と云ふ樣な所の入り口からすぐ見へる場所へ「千壽」と大文字を入れた大袈裟な色紙短册をぶら下げた樣に張り廻し、何々樓の何某と麗々しく記入してある、之れが彼女等には又となない誇りとなり名譽となつてるのてす又五十圓以上百圓までは五十錢當て褒美として、與へられる事にしてあるそふだから一入りに付き百圓を揚げれば三圓の褒美が貰はれると云ふ事になります斯くして、樓主等は藝娼妓の引留策に力瘤を入れ競爭心を起さしめてまでよからぬ業を奨勵して居るのです…

■■假　面■■

いつぞや、各地の新聞に出された、いんちき團の事てす、いんちき團と云ふは、多く汽車中て堂々たる風姿の紳士に化け主として特等及一二等の客を相手に巧みに談話をしかけては、旅中の娯樂として手遊び（賭博）を盛んにするのてす、彼等の云ふ所ては上流社會て、花牌びをしない者は殆どない殊に未亡人と云ふ階級の間に於ては、役者買ひよりも此の手遊びを知らぬ者は、寧ろ耻と云ふ樣になつてると云ふから女は女同志天晴れ貴婦人と化け込んて乘り込み一團となつて、勝負事に熱中するといふ。斯ふして知らない者には手引をし散る風して金を捲上げ東京に着いて後は其の屋敷にまで入り込み貴重品の有無等全かり見ておいて、子分を忍び込ませるのだとか、兎に角上流家庭の缺陷を狙らつて、非常に巧みな方法て、金品を失敬する團體て、四五十名組んてゐたそふてあります、斯ふして得た金は殆んど、遊廓に撒くので此社會ては下にも置かぬもてなし方てあるそうな。殊に親分なる者の妾として、身受けされる者が、幾人あるか知れないのだと云ふ。

美音子細も、其一人りてある。

否惡く考への深かい移り氣な斯る人物が美音子を其妻妾以上に、愛してゐたが土地より土地に行つての芝居を組む便宜上秘密を守り合つてわざと根引（身受け）せずにおいてあつたのだと云ふ。

當時（一昨年の秋頃）乾兒分、四十餘名は、遊廓の朝歸りとか某々倶樂部といふ樣な方面で夫れ〴〵、血眼に探してゐた警官の爲捕へられたが、親分なる人は今だに、捕へられず、（其後どふなつたか知らぬが）秘密な守る事に長けた、彼女等の家に陰くされて居つたとか云ふことて美音子姐は

私も賊に味方をするのは、お上みに對していゝ事とは、思はなかつたけれど、人情と云ふ物はそふしたわけにゆかないんですもの、夫れに私等の樣に、世間をいやと云ふ程渡り歩き、心まで曲つて了ふた者にはお上みが權柄着て、お調べになると、わざと意地になつて違るのよ。ホヽヽ、其爲には、何度裁判所まで引つ張り出されたか知れやしないわ、开して言ふ事が可いじやないの、

子分が大阪から親分の依賴を受けて、君の家に登てたのだ、と白狀したがこれても、こりないか！」と喝すのよ、そんなことを口に出す程なら、親分の居所だつて云つちまふわ。私等の樣な狐に向つて、鎌かけたつて駄目な事さ、だから私れ、鼻の先に受けて「フフン、兒分は何と云つたか知らないが、私は元來が藝者てす、金を持つて來れば誰にだつて登りまさあれ、人數は多し誰彼のおかまいなしにあがる私等がそふ一々顏か覺えたり況して心までが忍して、分かるもんですか、そりやあ何かの間違ひてせう」と飽くまて、白ばくれてやつたのよ、眞んとに私等はそこへゆくと、調法だわ、女郎は九十九人まて、男と夫婦約束しても、可いと云ふお定りなんだもの……有難い事さ……

■■風船玉の命■■

私の、二三年居た間にも、無理心中や奈然男の爲に殺されたのや、殺されかけたといふやうな問題は、隨分少なくなかつた、而かも其の原因はみんな無智な、色情關係からてある、女の方は始めから、深ひ考へもなく唯だ或る物を目的として、夫婦約束をする之れが二人や三人てはないのてあるから、男の方てはそれを知らないもんだから、いよ〳〵倉も家も、家族も飲み滅ぼした擧句、切つ端詰つた時になつて遊女から、脊負投げを食はされて初めて、目が覺めるのてある。

けれど、もふ此時は遲く自分の愚かな事は、悟らないて、僞はられたとか欺されたとか云ふ、無念さや口惜しさに、驅られ、今までは盲目的に極度まで愛してゐた、女を、怨みと憎しみに燃え、自暴自棄氣分になり、前後も辯まへず刃傷沙汰となるのです。

今迄は、何樓の何楷が、お客に斬られて怨したとか今迄は、何樓て斯んな心中があつたとか云ふやうな話は恒に聞き慣らされて珍らしくも思えなかつた位です

只彼女等と一日に「ほんとに馬鹿な男だれ！」と打ち切る位。泥の中に蓮の花咲く世の惜ひ、某る樓主の言葉は賴母しいと思つた、

今迄も貴女、驛員が、女を揚げてる所を巡査に引つ張られてゆきましたよ、何ても驛の金を使ひ込んだらしく、又乘客の品物も盜んだとか云つてましたから、新聞にも出ませうよ、あゝして、女に夢中になつた揚げ句は、お上みの厄介になるのかと思へば、もふ、つく〳〵其引かれてゆく後ろ姿を見乍ら、此の商賣と云ふ物が、空恐ろしゆなつて來ましたよ、あゝして何十人何百人の若か者が身をむざ〳〵誤まらして了ふんだかられ、イエ……モウ……良心が咎めるの、咎めぬつて話にやあなりませんれえ、私等が一時間も酒無しにゐられぬなあー…まあ！言はば、良心のやしもししては持ち上げる頭を、押付へ付てる樣なもんてすよ、酒を呑めば罪も罰も分らなくなつて、氣が大きく成つてきますかられえ、いや。もふそんな固た苦しい話は御免だ〳〵と身慄した。

私は他の同業者だつて、此人と同じ良心の責めは始終味つて居られる事と信じ、酒や一時的の遊戯に依つて、辛らくも良心のさゝやきを、塞いて不能の世渡りをしてる、此人たちを……染み〳〵可愛相だと思ひます、そして斯ふいふ人々の下たに、こき使われる幾萬の姉妹は倘ほ、同情せずにはゐられぬのです。

■■指輪の行衛■■

五月雨るゝ或る日曜の午後五號室の患者の喜代次さんが、「ほんの五分位の間に、床の上へおいてあつた、純金の指輪を失つたから、しらべて頂きたい……」といふ

事務にお屆けして、共に現場にゆき、さんざ、探して見たが皆の既に見たあとて、あろふ筈もない「迷惑てすが、災難だと思つて皆さん帶解いてみせて頂戴なそれから荷物も」と、云つたところ身におぼえなき者は流石職掌柄、裸體になる位は一向頓着せず、中には「何卒見て下さい、私等にやあコレ此通り、積根計つかりよ」とおこしを裏の樣に、擴げ廻す者さへある。始めから何だか怪しく、思はれてゐた、香久彌さんの周圍からも出なかつた。が衆目は此前も、八重菊さんが、懷中を床の枕の下へおいてあつたのを取つたことなどから彼の女に注がれてゐた。

取られた人は、だまつてるのに他から姐株を氣取つて食つてかゝるやら、意見をするやら、當てこするやらそれこそ四面楚歌の裏ちに包まれた。

けれど「私は例へ巡査が來て、どんなお調べをされても知らない者は知らないと言ひますよ」とびくともしない。十九にしては、いゝ度胸だ私は先づ皆を自分自分の室に歸らせたが、事務所ては香久彌さんに何事か懇々と說諭してゐたが、結局白狀しなかつたらしい……

そしてこんどは、事務員の一人りは私等の所へ來て、彼の女の年や、生れた年月日を聽に來た。怎うするのかと思つたら、易を見るのだといふ、夜に入つていよ〳〵、自由時間になつた八時頃、誰も來ぬ一室に彼の女を密かに呼び、「香久彌さん先つきは苦しかつたでせう、今晚私をあなたの、眞んの姉さんにして頂戴……そして距てなしに何ても、話して下さいな、あなた御兩親まめなの？」と心から打ち解けて言へば

「えゝ、お父ふさんは、內務省の小使ひしてるのよ、そして私んとこの二階には水上警察へ出る巡査が宿つてるのだから私決して嘘なんか言やしない事よ、皆がここは、警察の受持だからひどい目に逢はされると云ふけれど、私は眞んとに取つてないんてすもの…」

「そふれおうちが、そんなだつたら、倘ほ更ら嘘なんかつけない筈だわ、あなたがよくない事して、人を騷がせちやあ、第一ちお父ふ樣もどんなに迷惑するか知れませんわ、そしてあなた娼妓になるの今が始めて？

讀者の聲

是か非か

上海より　内山完造

拜啓貴會益々御發展欣賀此の事に存じ上候扨最近當に於いて輕々に看過し難き事件の發生と悲みを以つて報告致し候同地の新聞記事にて詳細を申上候小生は誠に由々敷問題てあると考へ直ちに禿筆を走らせて同書の通り投書致候處質問者たる小生が餘りに社會的地位なく餘りに人間らしからざるが爲にか、但し又此くの如き問題は到底問題とするに不足ものとの意か兎にも角にも二萬の同胞中一人の示敎者なきを小生としては實に案外千萬に御座候（或は明日にも示敎者を得るかも知れず候へ共）卽ち再び禿筆を去らせて遙かに貴會の御判斷と故國有識者の高敎を乞はんとするものに御座候

上海在留日本人が高貴の宮殿下を御招待申上るに當りて其席に賤婦醜業婦（名は藝妓と云ふと雖も上海藝妓なるものゝ實際は知る人ぞ知るてある）を侍せしめし事が不敬にあらず又世の風敎上に惡影響なしと云ふならば何をか不敬と言はん又何にをか風敎の問題と言ふを得んや、

又如此事件を默々の中に葬り去らんとする在留同胞の心中には果して日東男子の血は流れつゝありや、余は疑ふ二萬の同胞は生きて居るか死んて居る乎、

（當時の上海日々新聞記事抄錄）

（略）佛國汽船アンドレー・ルボン號（二萬噸）にて御無事御着滬、英租界小沙渡路一號なる日清汽船會社重役の社宅に入らせられたる　東久邇宮稔彥王殿下には暫時御休憩の後山崎總領事、內山副領事、佐藤、白木、二階堂三駐在武官等の御出迎えに因り同夜七時御宿所より約一町半を距る西摩路の總領事官邸へ御附武官溝口直高伯、池田宮內屬を隨へられて御成り御夕食を認めらる山崎總領事、內山副領事、三駐在武官、吳市參事會議員、櫻木行政委員會議長松平郵船支店長、米里日清支店長其他二三の御陪食ありて十時御歸邸、翌二十三日（中略）殿下には更に虹口に向はれて北四川路なる日本小學校に御參觀同校々庭に樹木の御手植えありし後新公園へ入られ園內御一週後御晝食を認められん爲め山崎總領事等の御案內にて六三園に入らる此日の御晝食は日本人俱樂部に於て召さるゝ御豫定なりしも御都合に由り六三園に變更せられたり御入園後の殿下は靑竹の間にて御休憩、御晝食の御準備成るや殿下には靑疊七十枚程敷き詰めたる大廣間に成らせられて御晝食あり山崎總領事林出副領事、三駐在武官以下各商社支店長の御陪食あり右に就き六三主人白石氏は語る

『御料理は新味のものを調理仕り御宴席には十五名の藝妓を出し而して殿下の御給仕は其內の一人なる榮龍に當らしめました御餘興としては大倉洋行小田さんの琵琶、藝妓十三六の舞がありました

（以下略す）以上の記事に對し內山完造氏より同社に送られたる書面の同紙に揭載せられたるものは左の如くてある）

拜啓

貴社御一同樣御揃ひ被遊筆硯益々御勇健欣賀此事に希ひ上候

扨て貴紙第二千二十八號第七七面（本日の日々新聞）第一欄の記事を讀みて小生は一つの疑問を生じ申候此はあながち小生一人のみにもあらず左に疑點を列記致し差出し申し候

願はくば貴紙の一端に御揭載の榮を得度く謹んで御願ひ申し上候

終りに貴紙の御隆盛を切に祈り上候敬具

日信大藥房內

四月二十四日　　內山完造拜

敢へて諸賢の高敎を乞ふ

一高貴なる宮殿下の御前に人の見て以て賤婦、醜業婦となす所の者共を侍らし奉るが如きは何等不敬の意味なき乎

一此の如き事柄は世の風敎上に何等惡影響なき乎

內山完造

—（以上同紙揭載全文）—

總選擧と吾鄉土

埼玉北角　一會員投

本縣下の公娼地、深谷町から高田某なる人が立候補した。而かも最高點を以て當選したのてある。

私は此の事實に就いて深かい疑問と大なる不安を感じたのてある。高田氏の學識、財產などの爲めてはなくてそれは、彼の人の人格に就いてゞある。延いては吾が鄉土の人心風氣の頹廢てある。

私には怎うしても彼の人が國民の選良てあるとは思はれない。寧ろ選惡のやうに想はれる。若し假りに選良てあつたとしたら、實に吾が國の政治は國民に採つては不安なものてなければならない。尠なくも如此無人格なる理想なきの人物を薦めて立法府に列せしめるといふことは、疑問ならざるを得ない譯てある。

聞くならく、同氏は目下五名の愛妾を蓄え且つ既に三名の姙娠者を擁して居るといふことてある。（恐らく中傷てあらうと思ふ、私も事實相異てあり度いと希ふのてあるが）全くの噓說てもないやうてある。

蓄妾とは抑も如何なることてあらう？

此れ人身を物質に依て拘束する惡德非倫の行爲てはないか！　若し夫れ彼等の中の姙娠せるものゝ分娩せんか憐むべき私生兒は玆に生れるのてある……

假令生活上の不安はないにしても私生兒たる人の不幸は大方てない——如此行爲者が最高點で吾が埼玉縣から選出されたのてある。廓淸會の主旨は風紀の刷新てある。斯いふ方面にも活動して貰ゐ度と希望する。

◇女子の採るべき途◇

山根白菊

從來我國に於て女子に對する教育の機關は日一日と進歩しつゝありますが實際の社會に立交つて眼を開いて見ますときに未だ一部分の外はその能の足りない事を切實に感ずるので御ざいます。

今日醜業婦となつて何よりも貴い心と肉體とを荒態の樣な男子の玩具となつて果てはその恐しい遊手に懸つて天より與へられた身を取りかへしのつかぬ不具にしてしまふのは何の罪で御ざいませう、親の爲、兄弟姉妹の爲、人のためとか種々餘儀ない事情の爲めに止を得ず身を落したものが大部分をしめて居るとすればこれは一層同情しなければなりますまい、この問題について社會は大いに考慮してその救濟の方法を執らなければならぬことゝ思ひます、現在その境遇にある哀れなる姉妹を救濟するの方法は今までにいろ〳〵と考へられてその道の識者の苦心されてゐるところで御ざいますが尙一層社會の人心を淸め自ら公娼、私娼の撲滅を叫び政府の力をも借りて全滅しなければなりませんがそれもよしとして根本の原因が尋れたならもつと外に大切なる問題がひそんでゐるのでは御ざいますまいか。

女子の職業問題も久しい以前から一部分の人々の問題となつて今日まで大分一般の人々にも眞面目に考へられてまゐりましてこれは誠によろこばればならぬ事でございますがしかし尙新しそうな女といはるゝものの仲にも「女に職業は入らぬ、只臺所の仕事と針の運び方さへ一通り可能れば、後は男の機嫁さへ上手にとる事が出來ればよい」と公然といつてゐるものも御ざいます。がこれは大なる誤りでは御ざいますまいか、私の知つてゐる範圍にも女一通りの藝は多少心得てゐて檀那の御機嫁をとることにも上手なのですが、夫の遊蕩は止まず、恐しい病氣をもち遂に感染して子女を産むことも可能ずしていつも不愉快な月日を過してゐる人がございます、夫人は病氣のために精神はいよいよヒステリツクの淺ましい振舞も時々出てきて側に見てゐる女にも御氣の毒でなりませんそれかといつて離婚をしても自活の道はこれといつてなし病氣の體を今更どうすることもならず只そ 日を不安のうちに過してゐらるゝので御ざいます、これを見るに付け女子の教育といふ事を眞面目に考へればならぬと思ひます、たとひ千萬金の持參金で御嫁入しても一度惡い病氣を受けた時精神的に受けたその病氣は恐しいもので遂にはヒステリーといふ一種の輕侮的名稱を附せられて出て行けよがしにされてその恥辱も堪へ忍ばればならぬとは何んたる不幸でございませう、もしこの時に慈愛のこもつた父母の手にある時代に一定の職業となるべき教育をされてゐましたならばその不幸極まる生活から脫して自由に自活の道をとつて行くことがてきましてその幸福は何にもかへられないで御ざいませう、私の住む場所は極靜かな善い所でございますて移りました當分は何んにも存じませんでしたが、お寺の家の二階がりしてゐる立派な奧樣風の婦人がこゝかしこに見へましてそれが人の蓄妾であると聞きまして驚きました、しかし彼女等は此の頃、琴、三味線など、稽古を始めて何んでも先き先きはその道の先生にでもなるつもりらしゆう御ざいます、しかし年齡も過ぎてゐますしそ 骨折りもどんなに多くかゝるだらふと思ひまして同情に堪へませんがこれら 人々…せめて何かの自活の道のつく女であつたなら、あつたら日蔭者になつてゐずとも幸福に暮らされ て御ざいませう醜業婦となる人の仲にも自活の道を失ふてやけてなるものも數多い事であらうと思ひます、殊に、女ばかりの子女をもつ親はその子女たちの教育をたゞ女一通りの藝をなどゝ上皮のみの教育に止まらないで徹底した一つの教育をぜひ御授けになる事を望みます、私は四人の女姉妹で兩親も死去し今殘つてゐるものは七十七歲になる祖母一人で御ごいます、父は分家した人ですから初めからそうたいした財產とてもなく只廣い住宅位のもので御ざいました、しかし私の少女時代迄は非常に成功し、時て蝶よ花よと長女のことゝて育て方も普通の女のやうに舞や、琴、三味線、生花、茶の湯など日も尙足らず隨分と四歲位から十八歲迄といふものは夢中に暮らしました、しかし早く母に死なれて祖母の手によつて育つた私共はまた不足の點もたくさんあつて自分でそれを知つてからはいろ〳〵の方法によつて修養もいたしました、父が病中の頃はいよ〳〵家も傾むいてその死後は哀れなものになりました、しかしそれでも私丈は或宗教學校に入つて一つの輕い職務を有つてゐましたのでそれが一家の救の元となり、末の二人の妹たちを祖父の偏見なキリスト教ぎらいな仲から一人づゝ或ミツションスクールに入れて教育されつつ居ります、それでも長女の責任は仲々重くて三人の妹たちの身のまはりのことや、いろ〳〵の相談事はみな心に非常な苦しい經驗を殘すことが多くて老いたる祖母ももう只子供のやうでやはり手のかゝる時も御ごいます、昔を知る故鄕の人々はいろ〳〵と親切にもいつて下さいますしかし自分にもつとしつかりした教育があればと時々過去に費した時間と、費用とを胸算しては殘念な事をしたと思ふことも御ざいます、しかしそれらの教育より受ける慰安はまた大なるもので感謝はいたして居りますが世の中の益々復雜になつてまゐる今日世の多くの子女を有つたる方々或は若き姉妹がたが世間の有樣に大きく眼を開いて一歩一歩をふみしめて確實なる教育を受くる事を第一とせられん事を欲して止まないのでございます、私は現在にあつても或學業を忙しい生活の傍勉强して居ります、これはまた只だ自活の道を得るといふのみの目的でなく日常の生活に能力强い有益な時間を過したいからで御ざいます「弱きものよ汝は女なり」との古い言葉も眞理で御ざいます、しかしいつまでも弱きものとのみ思つて止まつてはゐられません弱い身ながらもそれを保護する武器を具へたる立派なる女となりたいと存じます。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

□新人出でよ

小林光雄

光の度が強ければ強いだけ陰影も濃い。滔々たる物質文明の勃興は幾多の弊害を伴ひ、缺陷を生じた。現代社會人心の餘りに姦黠邪惡にして且つ矛盾多きに、吾人は前途を念ふて疑惧に堪へない。憂慮せざるを得ない。

試にその狀態を觀察せんか、恰も基督在世當時の羅馬帝國の内情に髣髴たりてある。

口に社會改造政策の改善を說きて、現に鐵窓裡赤衣の徒より猶甚しき罪惡を犯しつゝある政治家あり、陽に倫理道德の看板を高く掲げ男女間の貞潔を唱導しながら、陰に於ては或は花柳の巷に出入し或は處女を弄び、數へ子を姙娠せしむるが如き獸行會爲の教育家がある。十誡を破つて、酒色に耽溺するより他に能なき六慾煩惱の、佛敎を譯る賣僧あり、甘んじて宣教師輩の靴紐に接吻し、依つて以つて獲たる金にて飽食暖衣しながら、路傍餓と寒さに泣く貧者に一塊のパンすらも與へんとはせず、愛を說き救濟を說く賣笑婦にも劣つた、基督敎を譯る徒輩がある。俚諺に「言ふ人は行ふ人に非ず」と云ふのがあつたと思ふが、事實を穿つてゐるではないか。忠君愛國論者必ずしも愛國の士なりとは限つてゐないし、社會人心の腐敗を痛罵し改造を說くからと云つて總て潔白節操の士だと思ふは大なる誤りてある。

殊に奇異なるは近來一頻り雨後の筍の如くに簇出したる所謂「忠君愛國」者なるものゝ態度だが。彼等は團隊を成して到る處に於て頻りに皇室中心主義を宣傳唱導してゐるが、(恰も該主義は彼等に依つてクリエートされ彼等の專有物てあるかの如く）その所爲行爲の無定見、無節義、粗暴なるには實に驚くばかり、口を開けば直に眞正の義人の讒誣中傷を始める。國家社會の鹽となり光明となる廓清會、婦人矯風會等の誹謗攻擊てある。然して若し少しても自分等の意志に反する事あらば卽ち「我々の主義を妨害するは非國民なり、賣國奴なり」と許り、理非善惡の識別すら能はぬ無智無自覺なる雷同性の輩を煽動し、恰も蜂巢を破壞した如くわい〳〵と騷擾を惹起し建築物に瓦石を投じたり人を毆打する等の暴行を演じ以つて快哉を叫ぶと云ふ有樣てある。是れては何の爲に皇室中心主義を唱導するのか、眞に判斷に苦しむものだ。忠君愛國どころてはない。反忠君愛國てある、血を以つて血を洗ふの破壞主義てあるのだ。如斯奴輩こそ實に許すべからざる非國民てはないか。不敬不尊の徒てはないか。

吁！嘆ずべき世の風潮よ。昔者イスラエルの豫言者は、獰姦なるユダヤ民族を譏責して「蝮の裔よ」と叫んだ。青年傳道師耶蘇は、虛僞と虛飾の結晶體とも云ふべき學者、パリサイの徒を「咄！白く塗りたる墓」と痛罵激殺し、その僞善のマスクをヒンむいた。秋霜烈日の如きその激語よ。彼は今も尙、現代の社會に對して斯く叫んてはゐないだらうか。

日日の新聞紙は吾人に如何なる記事を報導するか。曰く疑獄、ストライキ、コンミッション、曰く離婚訴訟、姦通、強姦、墮胎、萬引曰く何、曰く何……と。これ總て危險文字、臭汚極まる文字の羅列てはないか社會の惡化、人心の腐敗、その極に達せりと云はざるを得ない。

愚なるは國民の無自覺てある。禍亂の萌芽は、今や到る處に胚胎しつゝあるのだ。眞に世を慨し、國を憂ふの士は晨の星の如くに極めて稀てある。これに反してヒタゴラス、ゴルキアスの徒の幾何に夥きや。「禍害なるかな、此の大なる都、かく時の間に荒涼んとは」（ヨハネ默示錄）

バビロンの榮華もニネベ、ローマ帝國の隆盛も、やがては「悲哀」の泡沫てあつた。不穩なる國家の運命や知るべきのみてある。

前車の覆轍は後車の誡てなくてはならぬ。政府も國民も自覺せねばならない。先づ非人道、非國家的なる公娼制度を廢止せよ。藝妓と稱する淫賣婦を撲滅せよ。其他あらゆる總てを改造し、禍芽を根底より踏ち去れよ。殷鑑遠からず、警戒猛省せれば實に禍害は立どころてある。

今や惡化腐敗せる社會に必要なるは眞の人格者てある一世の警鐘となるべき新人の出現てある。空論家に非ず、實行家てある。吾人は大に斯く叫びたい。否、叫ばざるを得ない。

大正のイザヤ、エレミヤ出でよ、サボナロラ、ルーテル、日蓮、空也達に出でよと。

滿天下に矜るに足る

理想選擧の馬鹿囃

浪花節やら幇間連の笛太鼓
言はぬが花の政黨に入る下心

雲梯居士の當選祝賀會

雲梯林田龜太郎氏が理想選擧を看板にして麻布赤坂兩區て當選した事實は「滿天下に對して選擧區の誇り」てあると其祝賀會が麻布十番の末廣座て催された今日（二十日）午前十一時頃から場内には紅白の花リボンを着けた有志者が詰掛けて舞臺ては、浪花節やら赤坂邊りの幇間連の神樂囃にピッヒョ騷ぎ唯モウ目出度い〳〵の賑やかな中に當の雲梯龜太郎氏が莞爾顏て言ふには「勿論私見を容れる政黨なら入黨もする併し政黨員の意志を黨議て拘束するとは憲法違反だと思つて居るが或る言はぬが花の政黨ては今後は黨員の意志を尊重すると言ふから話さへ纏れ入黨する考へだ何か？陰謀を企てゝ居るつて！僕は其麼惡人ぢやアないよ、が特別議會ては此憲法違反の事實をも問題にして見たいと思ふ」と氣焰萬丈てある。

以上は理想選擧て當選したといふ林田氏の當選祝賀會のやまと新聞に表れた記事てある。同氏の當選は寔にお芽出度いことには異いない。けれども幇間の馬鹿噺ては餘りにお芽出度過ぎはしないだらうか？況して運動者は紅裙連てあつたといふに至つては……（K）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

編輯之後

▼今度文部省と陸軍省との間に種々協議の結果、豫後備將校たる者は希望に依り小學教員たらしむる事に決し、文部省側では南次官の名を以て各府縣知事に對し實行方法其他に就て通牒すべく、陸軍省側では全國在鄕軍人會に通知する筈だといふ。

▼軍人の古手は頭が古くて固くて單純で始末に行かぬものだ、之を最も彈力に富む小學校に用ひやうといふのは、飛んでもない間違だと思ふ。豫後備軍人の生活救濟は自ら外にあるであらう。彼等の救濟の爲めに、日本の小國民を軍隊化されては堪つたものでない。

▼近來女子高等教育要求の聲が俄に高まつた。文部省でも男女共學迄開けかれたが、各女學校に高等學校を設置することを許す方針らしい。分備問題だけ矢釜しくなつて、婦人問題のみいつ迄も默つて居る筈はない。

▼オックスフォード大學に於ても、他の英國に於ける諸大學と同様に、婦人に對して色々の權利を拒んでゐたが、新なる規定の制定によつて、神學を除いた他の諸學科に對して婦人にも學位を許す事になつた。

▼米國では華盛頓州上院は婦人選擧修正案を通過した。其結果、國全體に婦人選擧權を與ふる爲め、米國憲法修正に必要なる全國各州の四分の三の多數と爲すには、最早唯一州を加ふれば足ることゝなつた。

▼十一月四日の米國大統領選擧には、千四百萬の投票を左右する參政婦人があるから、各大統領候補者は我も我もと婦人參政派なる事を宣言してゐるのは面白い、ウヰルソン大統領もオクラホマ州の議會にメッセージを送つて、憲法修正批准を勸告した、憲法修正前から婦人參政を許してゐるイリノイ州選出のブロッテ上院議員の如きは、憲法修正批准で行悩んでゐる西ヴァージニア州へ、飛行機で飛び女權派を應援した、斯う云ふ譯で女權反對者は娘子軍の手痛い攻擊を受け紐育州選出上院議員ウオズワース氏の如きは槍玉に上げられる一人である。

▼市俄古に開かれた婦人投票者同盟會は何れの黨派にも屬せず、其會員は何黨に屬するも差支ない事になつたが、同盟會の發起者たるチャプマンキャット夫人が『皆樣は今後政黨の內部に喰込んで行かれねばなりません、最初は非常に歡迎される樣に思はれませうが、其實黨內で重要な位置に置かれない事と思ひます、政黨には候補者や政綱を定める暗い場所があります、其處へは却々皆樣を入れぬに違ひありません、皆樣は何うしても其處迄突進しなければなりません、政治と云ふ事は皆樣に取つて新しい仕事ですから隨分困難を覺悟しなさい』と演說して千餘の會衆から喝采を博した。

▼紐育州共和黨から同黨全國大會へ出席する委員四名の中には一人の婦人も選ばれず唯一人アーサー・リヴァモーア夫人が補缺委員の一人に選出されたのみだつたので、紐育の民主婦人は『五分々々の權利』を猛烈に主張し大奮鬪の結果スミス知事と共にエリザベスマーベリー孃及びヘリエット、ミルス孃の二婦人が大會出席委員四名中に選ばれ補缺委員にも二人の婦人が加へられたのは娘子軍の幸先よしと云ふべきだ。

▼既報の如く新嘉坡の日本醜業婦二千名を、強制的に內地へ送還されることゝなつて居るが、第一回送還者三十一名は四月二十八日神戶へ歸着した、長崎一五、熊本七、鹿兒島三、和歌山三、福島二、大分一であつたといふ。

▼緣日でバイオリンを彈きながら卑俗な歌を唄つて、其の愚劣な歌本を賣る所謂讀賣り書生なるものは、全く惰風の宣傳者ともいふべきもので、彼等から流行らせられては小學生でも中學生女學生も乃至大學生も、臆面もなく唄ひ興じ、さては休暇の歸省の時には二三週間も前から盛んに稽古して、田舍で得々と傳授するといふ有樣で、こんなものは相當の取締をする必要が確にある、最近警視廳も漸く氣がついて來たのは喜ばしい。

▼財界の大變動が齎らした不景氣風は花柳界にも現はれた。今警視廳管下の貸座敷に就いて調ぶるに、本年三月現在市內五百四十八軒郡部百四十七軒合計六百八十五軒、(內吉原二八七洲崎二六一品川四五新宿五〇板橋十三千住一五八王子一四府中一〇)の貸座敷があつて、日夜浮れ男を招くわけだが、其の客數は二月に於て四十萬二千五百六十八人で、其遊消高二百十五萬六千三百圓であつた、然るに花柳界の書入月である、三月に入つて客數三十八萬千七百四十三人、遊消額二百萬千九十四圓に減じて居る。翻つて遊女の數を見るに、二月五千二百四十六人に對して、三月五千三百二十四人に殖えて居る、僅一ヶ月に於ける此の數の表示する所は不注意に看過することは出來ない。

▼更に密淫賣者の狀況を見るに、過ぐる大正五年五月調査當時市內八十軒に對して賤女九百五十八人、郡部六百八十軒に女千三百九十九人であつたが、現在市內百五十軒に對し三百十七人、郡部百四十六軒女九百四十人の減少である、然し檢擧され拘留處分を受けた者の數市郡を通じて四十五人、媒介の廉に依つて處分せられた者十八人の少きにある事を附記して置く。

▼今月十三日(日)に卷頭に廣告した通り本年度の總會を開きます故、各地會員諸君は奮つて御來會を願ふ。

▼本誌が毎度發行遲延で申譯ばかりしてゐて誠に恐縮でありますが、折角編輯に入社した足羽君が病氣で入院したので又手筈が狂ひました。遂に五月發行が六月になりました、併し必ず奮勵して取返しますから、又暫く御寛恕の程を切にお願ひして置きます。

大正九年六月十日印刷　（每月一回十日發行）
大正九年六月十日發行　（一部定價金拾八錢）

編輯
發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉

印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生

印刷所　本鄕區眞砂町三十六番地　日東印刷株式會社

發行所　神田區表猿樂町十番地　廓淸會發行所
電話神田四〇二〇番
振替東京二七〇七二番

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

◉御注文の際は必ず雑誌『廓清』による旨を申添を乞ふ◉

酒きらいになる藥

禁酒丸

一週分 一圓五十錢
二週分 二圓八十錢
三週分 四圓

どんな酒煙草のみでも害なく心からきらいになる。郵券二錢送れば説明書及大澤博士其他名士の禁酒禁煙論進呈

禁煙散

煙草きらいになる藥

金壹圓　金貳圓　金参圓

本舗 大阪靱南通二丁目 森田商店
電話土佐堀二六〇二番
振替大阪二二壹二六番

産婦人科 小兒科

鷲山改め

女醫 吉岡彌生

△院長診療 宅診午前 往診午後
△醫員診察 午前 午後

産室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麹町區飯田町四丁目三十一番地

東京至誠病院

電話番町二二五七番

歐米時計類
眼鏡双眼鏡
測量諸器械
金銀美術品

精工舍時計

紀念盃徽章
ダイヤモンド
寶石指環類
各種裝身具

東京銀座四丁目

服部時計店

電話 京橋 一三〇〇 一一二〇 一三〇一 一三二三 一三〇二 一八〇〇 特長